第一　判決ノ廢棄カ確定セラレタル事件ニ法律ヲ適用スルニ方リ之ニ違背シタル為メニ為サレ且其事件カ裁判ヲ為スニ熟シタル片

第二　判決ノ廢棄カ訴訟ノ許ス可カラサル為メ又ハ裁判所ノ管轄違ナル為メニ為サルヽ片

第五百十一條　法律ニ違背シタル丁カ裁判ノ理由ニ因テ顯ルヽ片ト雖モ其他ノ理由ニ因リ裁判カ正當ナリト顯ハルヽニ於テハ上告ヲ却下ス可シ

第五百十二條　上告カ理由ナク又ハ證明セラレサルト見ユル片ハ之ヲ却下ス可シ

第五百十三條　左ノ諸件ニ関スル控訴ノ成規ハ上告ニ之ヲ準用ス

第一　闕席判決ニ對スル不服申立

第二　控訴ノ取下及ヒ控訴ヲ為サヽルノ契約

第三　原告被告ノ雙方ヨリ控訴ヲ起シタル片ノ訴訟手續及ヒ控訴ト故障トヲ同時ニ為シタル片ノ訴訟手續

第四　控訴ヲ起シタル者ノ損害ト為ル裁判ヲ許ス可カラサル丁

第五　闕席判決ヲ發スル丁

第六　控訴ヲ起シタル丁ノ届出及ヒ記録ノ差出并ニ還付

第七　控訴ノ名稱不當ナル場合ニ於ケル訴

訟手續

然レ凡第六號ニ掲ケタル成規ニ付テハ左ノ特別ナル規定ヲ遵守ス可シ

若シ事件カ控訴裁判所ニ差戻サレ又ハ他ノ控訴裁判所ニ移送セラレタル片ハ記錄ハ第一審裁判所ニ通知ヲ為シテ直チニ之ヲ控訴裁判所ニ送致ス可シ大審院又ハ事件ノ移送ヲ受ケタル控訴裁判所カ事件其モノニ付キ裁判シタル片ハ前控訴裁判所ニ知ラレム為メ判決ノ謄本ヲ之ニ送付ス

第五百十四條　上告提起ノ期間ヲ懈怠シタル原告又ハ被告ハ天災若クハ其他ノ避ク可カラサル事變ニ因リ期間ヲ遵守スルヿヲ妨ケラレタル片ハ非常上告ヲ為スノ權利アリ

非常上告ノ提起ニハ第四百八十四條以下ノ規定ヲ準用ス

第三章　抗告

第五百十五條　上訴ノ方法タル抗告ハ此法律ニ於テ特別ニ掲ケタル場合ノ外尚ホ左ノ諸件ニ對シ之ヲ爲スヿヲ得

第一　訴訟手續ニ關スル申請ヲ却下スル裁判決定及ヒ命令

第二　强制執行手續ニ於テ發セラレタル裁判決定及ヒ命令

但右ノ裁判ヲ豫メ口頭辯論ヲ經スシテ發スルヿヲ得ルヰニ限ル

第五百十六條　抗告ニ付テハ直近上級裁判所之ヲ裁判ス

抗告裁判所ハ其主張セラレタル抗告ノ調査

ノミヲ爲ス但職権ヲ以テ視察ス可キ訴訟手
續ノ欠缺ニ關スルトキハ此限ニ在ラス

第五百十七條　抗告ハ不服ノ申立ヲ受クル裁判ヲ爲シタル裁判所ニ抗告状ヲ差出シテ之ヲ起ス

爭訟カ區裁判所ニ繫屬シ若クハ嘗テ繫屬シタルトキ又ハ抗告カ證人、鑑定人ヨリ起サレ若クハ證書若クハ撿證ノ目的ヲ提出スルノ義務アリト宣言セラレタル第三者ヨリ起サレタルトキハ口頭ヲ以テ抗告ヲ爲スヿヲ得

第五百十八條　抗告ハ新ナル事實及ヒ擧證方法ヲ以テ憑據トスルヿヲ得

第五百十九條　不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所カ再度ノ考案又ハ新ナル提供ニ基キ抗告ヲ理由アリトスルトキハ之ヲ聽届ク可シ然ラサレハ抗告ハ裁判所ノ陳辯ヲ付シテ三日ノ期間内ニ之ヲ抗告裁判所ニ送付シ又適當トスル場合ニハ訴訟記錄ヲ添ヘテ之ヲ送付ス可シ

第五百二十條　抗告ハ此法律ニ於テ別段ノ成規ヲ設ケタル場合ニ於テノミ執行停止ノ効力ヲ有ス

然レ凡不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所ハ其執行ヲ抗告ニ付テノ裁判アルマテ中止スルヿヲ命スルヿヲ得

第五百二十一條　急迫ナル場合ニ於テハ抗告

ハ直チニ抗告裁判所ニ之ヲ為スヲ得

抗告裁判所ハ裁判ヲ為スノ前下級ノ裁判所ノ陳辯及ヒ記錄ヲ要求シ且假ノ命ヲ發スルヲ得

第五百二十二條　抗告裁判所ハ豫メ口頭辯論ヲ經スシテ裁判スルヲ通例トス

裁判所ハ抗告人ノ利害關係ニ反對セル利害關係ヲ有スル者ニ書面上ノ反對陳述ヲ為サシムル為メ抗告ヲ通知シ且事實上ノ探知ヲ為スヲ得

要求セラレタル反對陳述ハ抗告カ口頭ヲ以テ為サレ得ヘキ場合ニ於テハ又口頭ヲ以テ之ヲ為スヲ得

抗告裁判所ハ當事者ヲ口頭辯論ノ為メ呼出スヲ得

第五百二十三條　抗告裁判所ハ抗告カ許サル可キモノナルヤ否又法律上ノ方式及ヒ期間ニ於テ提出セラレタルヤ否ヲ職權ヲ以テ調査ス可シ

若シ此要件ノ一ヲ缺ケル時ハ抗告ヲ不適法トシテ棄却ス可シ

第五百二十四條　抗告カ適法ニシテ且理由アリト見エル時ハ抗告裁判所ハ其意見ヲ以テ自ラ必要ナル新命ヲ發シ又ハ不服ヲ申立テラレタル裁判所ニ之ヲ為シタル裁判ヲ變更スルヲ得

抗告裁判所ノ裁判ノ言渡ハ抗告裁判所ニ於テ別段ニ定メサル限リハ下級ノ裁判所ニ於テ之ヲ爲ス

第五百二十五條　下級ノ裁判所ハ繫屬ト爲リタル爭訟ニ於テハ抗告裁判所ノ裁判ニ羈束セラル

第五百二十六條　抗告裁判所ノ裁判ニ對スル抗告ハ此法律ニ於テ別段ニ掲ケタル場合ニ非サレハ之ヲ許サス

第五百二十七條　受命判事若クハ受託判事又ハ裁判所書記ノ裁判ノ變更カ求メラルヽ牛ハ先ツ受訴裁判所ノ裁判ヲ求メ其裁判ヲ以テ抗告ノ目的トス

第五百二十八條　抗告ノ名稱不當ナル場合ニ於ケル訴訟手續ニ付テハ第四百八十二條ノ規定ヲ準用ス

第五百二十九條　抗告提起ノ期間ヲ懈怠シメル原告又ハ被告ハ天災又ハ其他避ク可カラサル事變ニ因リ期間ヲ遵守スルヿヲ妨ケラレメル牛ハ非常抗告ヲ爲スノ權利アリ

非常抗告ノ提起ニハ第四百八十四條以下ノ規定ヲ準用ス非常抗告提起ノ期間ハ七日トシ其障碍ノ止ミタル日ヲ以テ始マル

民事訴訟法草案

第廿二回

第六編　再審

第五百三十條　確定判決ヲ以テ終結シタル訴訟手續又ハ回復ノ訴ニ因リ之ヲ再施スルヲ得

第五百三十一條　左ノ場合ニ於テハ取消ノ訴ニ因リ再審ヲ爲スヲ得

第一　判決ヲ爲ス裁判所カ成規ニ依リ構成セラレサリシトキ

第二　法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタル判事カ裁判ニ參與シタルトキ但除斥ノ理由カ忌避ノ申請又ハ上訴ヲ以テ主張セラレタルモ其效ナカリシトキハ此限ニ在ラス

第三　判事カ忌避セラレ且忌避ノ申請カ理由ノ
アリト認メラレタルニ拘ハラス裁判ニ
参與シタルトキ
第四　訴訟ニ於テ原告又ハ被告カ訴訟
ヲ爲スコヲ明示又ハ默示ニテ許サレサル
場合ニ於テ法律ノ成規ニ從ヒ代理セラレ
サリシトキ

第五百三十二條　左ノ場合ニ於テハ曲徒ノ訴
ニ因リ再審ヲ爲スコヲ得
第一　刑法ニ掲ケタル職務上ノ義務ニ背ク
罪ヲ爭訟ニ關シ
與シタル判事カ裁判ニ參
第二　原告又ハ被告ノ法律上代人若クハ訴

訟代人又ハ相手方若クハ其法律上代人若
クハ訴訟代人カ原告又ハ被告ニ不利ナル
裁判ヲ爲スニ至ラシメタル罰セラルヘキ
行爲ヲ爭訟ニ關シテ爲シタルトキ
第三　判決ノ憑據ト爲リタル證書カ僞造又
ハ變造ナリシトキ
第四　證人鑑定人又ハ證人トシテ訊問セラ
レタル相手方カ供述ニ因リ又通事カ判決
ノ憑據ト爲リタル通譯ニ因リ僞證ノ罪ヲ
犯シタルトキ
第五　判決ノ憑據ト爲リタル刑事上ノ判決
カ刑事訴訟法第四百三十九條以下ニ揭ケ
タル訴訟手續ニ於テ他ノ確定ト爲リタル

刑事上ノ判決ヲ以テ廢棄セラレタリシ片

第六　原告又ハ被告カ他ノ爭訟ニ於テ同一ノ爭訟物ニ付キ發セラレタル判決ニシテ前ニ確定ト爲リタルモノヲ發見シ其判決カ不服ヲ申立テラレタル判決ト牴觸スル

第七　原告又ハ被告カ其利益ト爲ル可キ裁判ヲ爲スニ至ラシム可キ他ノ證書ヲ發見シ又ハ之ヲ使用スルコヲ得ル片

第一號乃至第四號ノ場合ニ於テハ罰セテル可キ行爲ノ爲メ確定判決カ爲サレタル片又ハ證據欠缺外ノ理由ヲ以テ刑事訴訟ヲ續行カ爲サレ得サル片ニ限リ再

審ヲ爲スコヲ得

第五百三十三條　原告又ハ被告カ前訴訟ヲ續ケルニ於テ判決ノ發セラルヘキ前又ハ其確定ト爲リタル理由ヲ自己ノ過怠ニ非スシテ主張スルコヲ得サリシ片ニ限リ再審ヲ爲スコヲ得

第五百三十四條　再審ノ訴ニ付テハ不服ヲ申立テラレサル裁判ヲ發シタル裁判所ハ專屬管轄ヲ有ス

同一ノ事件ニ付キ一分ハ下級ノ裁判所ヨリ發セラレタル數又一分ハ上級ノ裁判所ヨリ發セラレタル數箇ノ判決ニ對シ訴カ起サル、片ハ其再審ノ上級ノ裁判所ノ專屬管轄タリ

區裁判所ノ督促手續ニ於テ發セラレメル支
拂命令ニ對スル再審ノ訴ハ其支拂命令ヲ發
シタル區裁判所ニ專屬ス然レ𪜈其請求カ區
裁判所ノ管轄ニ屬セサル𪜈ハ再審ノ訴ハ請
求ニ付テノ爭訟ノ管轄裁判所ニ專屬ス

第五百三十五條　再審ノ訴ハ一个月ノ期間内
ニ之ヲ起スヲ要ス
其期間ハ原告又ハ被告カ不服ノ理由ヲ知リ
タル日ヨリ以テ始マル若シ原告又ハ被告カ判
決ノ確定前ニ不服ノ理由ヲ知リメル𪜈ハ期
間ハ判決ノ確定ノ日ヨリ起算シテ五个年ノ滿了シ
メル後ハ再審ノ訴ハ最早之ヲ許サス

六

前二項ノ規定ハ代理ヲ欠缺ノ爲メノ再審ノ訴
ニ之ヲ適用セス此場合ニ於テ其訴ノ提起ノ
期間ハ原告若クハ被告又其訴訟能力ノ欠缺
スル𪜈ハ其法律上代人カ送達若クハ其他ノ
方法ニ因リ判決ノ發セラレメルコヲ知リメ
ル日ヨリ以テ始マル

第五百三十六條　再審ノ訴ノ提起前原告ハ受
救權ヲ付與セラレサル𪜈ハ再審金十圓ヲ裁
判所書記ニ預ケ可シ
再審金ニ付テハ第四百九十四條ノ規定ヲ準
用ス

第五百三十七條　再審ノ訴ノ提起ハ訴狀ヲ管
轄裁判所ニ差出シテ之ヲ爲ス

七

訴カ區裁判所ニ屬スルキハ口頭ヲ以テ之ヲ
爲スコヲ得

再審ノ訴ノ名稱不當ナル場合ニ於ケル訴訟
手續ニ付テハ第四百八十二條ノ規定ヲ準用
ス

第五百三十八條　再審ノ訴ハ準備書面ニ付テ
ノ普通規定ニ從ヒ之ヲ作リ且左ノ諸件ヲ揭
クルコヲ要ス

第一　再審ノ訴ヲ受クル判決ノ表示

第二　此判決ニ對シ再審ヲ受ク可キ旨ノ陳
述

第三　再審ノ理由及ヒ法律上ノ期間ノ遵守
ヲ明カナラシムル事實ノ明示

第四　舉證方法ノ表示

第五　判決ノ廢棄ヲ如何ナル程度ニ於テ申
立ツルヤ又本事件ニ於テ如何ナル他ノ裁
判ヲ申立ツルヤノ陳述

然レ𪜈第四號ニ揭ケタル要件ノ欠缺ハ其訴
ノ提起ノ効力ニ影響ヲ及ホサス

第五百三十九條　再審ノ訴ニハ再審金ノ預リ
證書又ハ受救權付與ノ證明書ヲ添フ可シ若
シ之ヲ添ヘサルキハ其提起ヲ爲サヽルモノ
ト看做ス

第五百四十條　再審手續ニハ下ノ數條ニ於テ
別段ノ規定ヲ設ケサル限リハ其訴ニ付キ辯
論及ヒ裁判ヲ爲ス可キ裁判所ノ訴訟手續ニ

関スル成規ヲ適用ス

第五百四十一條　許ス可カラサルヿノ判然ナル再審ノ訴又ハ法律上ノ方式及ヒ期間ニ於テ起サレサル再審ノ訴ハ訴訟指揮上ノ命令ヲ以テ却下ス可シ

却下ノ命令ニ對シテハ抗告ヲ爲スヿヲ得

第五百四十二條　再審ノ原告ハ相手方ノ陳述アルニ拘ハラス再審ノ理由及ヒ法律上ノ期間ノ遵守ヲ明カニスル事實ヲ疏明ス可シ

第五百四十三條　許ス可カラサル再審ノ訴又ハ法律上ノ方式及ヒ期間ニ於テ起サレサル再審ノ訴ハ職權ヲ以テ判決ニ因リ不適法トシテ棄却ス可シ

第五百四十四條　再審ノ訴カ許ス可キモノナルヤハ本事件ニ付キ不服申立ノ理由ノ存スル限リハ更ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲ス可シ

裁判所ハ訴ノ許ス可キヿニ付テモ又兩辯論ノ結果カ許ス限リハ本事件ニ付テモ同時ニ判決ヲ以テ裁判スルヿヲ得

第五百四十五條　再審ノ原告ノ損害ニ判決ヲ變更スルヿハ相手方カ再審ノ訴ヲ起シテ變更ノ申立ヲ爲シメルヤニ限リ之ヲ爲スヿヲ得

第五百四十六條　訴カ大審院ニ屬スルヤハ大審院ハ再審ノ理由及ヒ其許否ニ付テノ辯論ノ完結カ係爭事實ノ確定及ヒ斟酌ニ繫カル

ヲ妨ケラレメルキニ限リ非常再審ノ訴ヲ起スノ權利アリ非常再審ノ訴ヲ提起スルニハ第四百八十四條以下ノ規定ヲ準用ス

キト雖モ其完結ヲ爲ス可シ

第五百四十七條　再審ノ訴ニ付キ發セラレタル判決ハ訴ニ付キ裁判シタル裁判所ノ判決ニ對シ普通ノ例規ニ從ヒ上訴ヲ以テ之ヲ得又此裁判所ノ判決ニ對シテハ更ニ再審ノ訴カ第五百二十八條第六號及ヒ第七號ノ理由ノ一ニ因テ更ニ再審ノ訴ヲ起スヲ得ス

第五百四十八條　再審ノ訴ヲ提起スル期間ヲ懈怠シタルカ爲メ又ハ被告カ天災又ハ其他避ク可カラサル事變ニ因リ期間ヲ遵守スルヲ

第七編　特種ノ訴訟

第一章　口頭辯論ヲ以テ終結スル書面ノ訴訟手續

第五百四十九條　地方裁判所ニ於テ第一審ニ繫屬トナリタル爭訟ニ付キ其事實上ノ關係又ハ證據材料ノ非常ニ廣大ナル為メ若クハ特別ニ錯雜セル為メ通常ノ訴訟手續ヲ以テ其爭訟ヲ解明シ盡スヿ能ハサル片ハ此爭訟ニ付キ口頭辯論ノ期日ニ於テ申立ニ因リ又ハ職權ニ依リ口頭辯論ヲ以テ終結スル書面訴訟手續ノ開始ヲ命スルヿヲ得

第五百五十條　妨訴ノ抗辯ハ書面訴訟手續ヲ命スルニ付キ辯論ヲ喚スノ前ニ之ヲ完結ス

可シ

第五百五十一條　書面訴訟手續ヲ命ス ル決定ヲ言渡スニ際シ之ト同時ニ原告ヨリ訴ノ補充ノ為メ書面ヲ差出ス可キ相當ノ期間ヲ定メ且判事一名ニ訴訟手續ノ指揮及ヒ報告ヲ委任ス可シ

第五百五十二條　書面訴訟手續ヲ命シ又ハ之ヲ拒ム決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルヲ得ス

第五百五十三條　訴ノ補充書ハ二十日ノ期間内ニ答辯書ヲ差出ス可キノ催告ヲ附シテ之ヲ被告ニ送達ス原告カ定マリタル期間内ニ訴ノ補充書ヲ差出サ、リシ場合ニ於テモ亦

答辯書ヲ差出サ
原告ハ十四日ノ期間内ニ答駁書ヲ差出シ被
告ハ十四日ノ期間内ニ再答辯書ヲ差出スヿ
ヲ得

第五百五十四條　準備書面ニ付テノ普通規定ハ書面訴訟手續ニ於テ差出ス可キ書面ニモ亦之ヲ適用ス

第五百五十五條　抗辯答駁及ヒ其他總テ提出ス可キ申述ハ同時ニ擧證方法ヲ表示シテ之カ為メ定マリタル書面ニ於テ之ヲ主張スルヿヲ要ス

第五百五十六條　原告被告ノ各方ハ其擧證方法トシテ用サントスル所持ノ證書ノ謄本ニ

テ其援用スル書面ニ添附ス可シ
相手方カ其原本ヲ閲覧セシト求ムルトキハ其
申立ニ因リ訴訟手續ノ指揮ヲ委任セラレタ
ル判事ハ原本提出ノ期日ヲ定ム可シ其期日
ニ原本ノ提出ヲ為サヽル原告又ハ被告ハ本
審ニ於テ此擧證方法ヲ喪フ

第五百五十七條　原告又ハ被告ノ主張シタル
事實擧證方法及ヒ擧證抗辯ニ付テハ相手方
ハ通常ノ訴訟手續ニ付テノ成規ニ從ヒ口頭
辯論ニ於テ為ス可キノ義務アル場合ト同一
ノ方法ヲ以テ其書面中ニ陳述ヲ為ス可シ若
シ之ニ違フトキハ其場合ト同一ノ失權ヲ受ク
爭ハレサル事實上ノ主張ハ自認セラレタル

モノト看做サレ又眞正ナルヿノ爭ハレサル
證書ハ認諾セラレタルモノト看做サル但原
告又ハ被告ノ之ヲ爭ハントスル意思カ書面
ノ其他ノ包有事項ニ因テ顯ハルヽトキハ此限
ニ在ラス

第五百五十八條　書面交換ノ終ハリタルトキ又
ハ答辯書若クハ其他ノ書面ノ差出ヲ怠リタ
ルトキハ報告判事ハ其記録ニ基キ裁判ノ為メ
要用トスル限リハ爭訟ノ事實関係及ヒ権利
関係ノ表明書ヲ七日内ニ作ル可シ但法律ニ
係ル判定ニ立入ルヿヲ得ス
其後ニ至リ口頭辯論ノ期日ヲ定ム

第五百五十九條　口頭ノ終結辯論ハ報告判事

ノ表明書ニ依リ演述スルコトヲ以テ始マル

原告被告ハ補充及ヒ更正ヲ為シ之ニ次キ其申立ノ理由ヲ辯明スルノ権利ヲ有ス

第五百六十條　口頭辯論ニ於ケル許ノ変更ハ被告ノ承諾アル片ト雖モ之ヲ許サス

第五百六十一條　事實、擧證方法及ヒ擧證抗辯ニシテ書面ニ於テ主張セラレサリシモノハ原告又ハ被告カ其過怠ニ非スシテ書面ニ於テ主張スル能ハサリシコトヲ疏明スルキニ限リ之ヲ提出スルコトヲ得

事實上ノ主張及ヒ證書ニ付キ書面ニ於テ為サヽリシ陳述ハ口頭辯論ニ於テ之ヲ追完スルコトヲ得ス

第五百六十二條　裁判所ハ原告被告ノ一方又ハ雙方カ口頭辯論ノ第一期若クハ其他ノ期日ニ出頭セサル片ニ於テモ亦記錄ニ基キ裁判ス可シ

關席判決ハ之ヲ發スルコトヲ得ス

第五百六十三條　上級審ニ於テハ此章ノ規定ヲ適用セス

第二章　為替訴訟

第五百六十四條　為替條例ノ意義ニ於ケル振出シタル為替ノ訴ハ支拂地ノ裁判所又ハ被告カ其住所ニ因リ裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所之ヲ管轄ス

数名ノ為替義務者ハ支拂地ノ裁判所又ハ其

一人カ住所ニ因リ裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所ニ共同ニテ訴ヲ提起スルコトヲ得

第五百六十五條　訴状ニハ為替訴訟ニ付キ訴フル旨ノ陳述ヲ掲ケルコトヲ要ス

為替手形、支拂拒ミ證書及ヒ其他振出ノ請求ヲ證スル為メ必要ナル證書ハ謄本ニテ訴状ニ之ヲ添附スルコトヲ要ス

第五百六十六條　単訟ノ開始ニ對シ障碍ノ存セサル場合ニハ訴ヲ起シタル裁判所ニ直チニ口頭辯論ノ期日ヲ定ム

準備書面ノ交換ハ之ヲ許サス

第五百六十七條　呼出期間ハ少ナクモ二十四時間トス

口頭辯論ノ期日ノ變更ハ原告又ハ被告ノ一方カ期日ニ辯論スルニ付キ避ク可カラサル障碍アルコトヲ申述シ且疏明シタルキニ限リ之ヲ許スコトヲ得

第五百六十八條　為替ノ訴ニ對シテハ為替法ニ基ケル抗辯又ハ其然ラサル場合ニ於テハ各時ノ原告ニ對シ直接ニ被告ニ屬スル抗辯ノミヲ許ス

第五百六十九條　妨訴ノ抗辯ハ本事件ノ辯論ヲ拒ムノ被告ニ與ヘス然レ氏裁判所ノ權利ヲ申立ニ因リ又ハ職權ニ依リ此ノ如キ抗辯ニ付キ分離シテ為ス可キ辯論ヲ命スルコトヲ得

第五百七十條　反訴ノ提起ハ之ヲ許サス

第五百七十一條　舉證方法トシテハ即時提出セラルヘキ證書、出頭セシメタル證人又ハ證人トシテノ原告被告ノ訊問ノミ許サル

提出セラレタル證書ノ眞否ニ付テノ證ハ前項ニ明示シタル方法ヲ以テノミ之ヲ舉クルヲ得

第五百七十二條　本來適法ナルモ適法ノ舉證方法ヲ以テ憑據トセス又ハ適法ノ舉證方法ヲ以テ證明セラレサル抗辯ニ付テハ裁判所ハ被告ヵ敗訴ト為リタル判決式文ニ於テ別ノ訴訟ヲ以テ其抗辯ヲ追行スルヿヲ被告ニ留保スル可シ

若シ判決式文ニ於テ前項ノ留保ヲ定メサルキハ被告ハ第三百八十九條ノ規定ニ從ヒ判決ノ補充ヲ申立ツルノ權利ヲ有ス

第五百七十三條　留保セラレタル抗辯ヲ追行セント欲スル敗訴ノ被告ハ前ノ原告ニ對シ別ノ訴ヲ為スヿヲ要ス此訴ニ付テハ普通ノ例規ニ從ヒ管轄ヲ有スル裁判所ノ外為替訴訟ニ關シ第一審ニテ判決ヲ為シタル裁判所モ亦管轄ヲ有ス

判決式文ニ於テ被告ハ別ノ訴訟ニ於テ之ヲ主張スルヿヲ得ス

為替訴訟ニ於テ主張セラレタル請求ノ理由ナカリシヿカ別ノ訴訟ニ付キ發セラレタル判決ノ廢棄ニ且原告ノ為替請

求ヲ却下シ及ヒ此ニ因テ生シタル費用ヲ辯償セシメ又申立ニ因リ判決ニ基キ原告ニ支拂ヒタルモノヽ、辯償ヲ原告ニ言渡ス可シ

第五百七十四條　判決ニ接着スル口頭辯論ノ終ニ至ルマテ原告ハ被告ノ承諾ヲ要セス且事件ノ継續セル権利拘束ヲ害スルヿ無クシテ為替訴訟ヲ止メ通常ノ訴訟手續ニ於テ爭訟カ尚ホ辯論セラル可キノ申立ヲ為スヿヲ得

第五百七十五條　第五百六十五條以下ノ規定控訴審ニ於テモ亦之ヲ適用ス

第五百七十六條　為替條例ノ意義ニ於ケル約束手形ノ訴ニハ此章ノ規定ヲ準用ス

第八編　強制執行

第一章　總則

第一節　強制執行ノ開始及ヒ續行

第五百七十七條　強制執行ハ確定ノ終局判決又ハ假執行ノ宣言アリタル終局判決ニ因テ之ヲ為ス

第五百七十八條　判決ハ適法ナル故障ノ申立又ハ適法ノ上訴タル控訴若クハ上告ノ提起ノ為メ定メラレタル期間ノ満了前ニハ確定ト為ラス

判決ノ確定ト為ルヿハ故障又ハ上訴タル控訴若クハ上告カ適當ナル時間ニ提起セラルヽニ因テ妨ケラルヽヿ無シ

第五百七十九條　原告又ハ被告カ判決ノ確定

ニ付キ證明書ヲ求ムルトキハ第一審裁判所ノ書記ハ記録ニ基キ之ヲ付與ス

第

爭訟カ尚ホ上級審ニ於テ繫属中ナルトキハ上級裁判所ノ書記ハ判決ノ確定ト為リタル部分ノミニ付キ證明書ヲ付與ス

證明書ハ判決書ノ正本ニ之ヲ追記ス

五百八十條　證明書ノ付與カ判決ニ對シ控訴又ハ上告ノ起サレサルニ繫カル場合ニ於テハ原告若クハ被告カ上訴ノ提起ニ付キ届出ヲ為サスシテ上訴期間ヲ満了セシメタルヿニ因リ又ハ上訴ヲ明ニ抛棄シタルヿニ因リ又ハ上訴状ヲ成規ノ期間内ニ領收セル旨ヲ上級裁判所書記ノ證シタルヿニ因リ判決ノ確定ト為リタルヿヲ判然ナラシムルトキハ其證明書ヲ付與スルヿヲ得

第

判決カ故障申立ヲ受クルトキハ證書ハ故障期間ノ満了前ニ之ヲ付與スルヿヲ得ス

五百八十一條　左ノ判決ニ付テハ其之ヲ發スルニ際シ職権ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ為ス可シ

第一　認諾ニ基キ敗訴ヲ言渡スノ判決

第二　片務契約ニ関スル證書ヲ以テ引受ケタル義務履行ノ責務ヲ言渡スノ判決但其證書カ内國ノ公證書若クハ為替證券ナルトキ又ハ債務者其眞正ナルヿヲ訴訟ニ於テ爭ハサルトキニ限ル

第三　商ト取引ニ関スル商人間ノ争訟ニ付キ裁判スル判決

第四　占有ノ訴ニ付キ発セラレタル判決

第五　賃借人ヲシテ賃借ノ場所ヲ明渡サシメ又ハ賃貸人ヲシテ賃貸ノ場所ヲ引渡サシムル為ス可キ言渡ス判決

第六百八十二條　抑置又ハ仮処分ヲ取消ス判決

第五百八十三條　財産権上ノ請求ニ関スル判決ニ限リ左ノ場合ニ於テ債権者ノ申立ニ因リ仮執行ノ宣言ヲ為ス可シ

第一　債権者カ執行ノ前ニ保證ヲ立テント欲スル時

第二　債権者カ判決ノ確定ト為ルマテ執行ヲ中止セハ回復スルヲ得サル損害ヲ受ク可キ時

第五百八十四條　仮執行ハ訴訟費用ノ包含セラレタル部分ニ付テハ之ニ言渡スヲ得ス

債務者カ判決ノ確定ト為ルマテ執行セハ回復スルヲ得サル損害ヲ受ク可キ時ニ限リ左ノ諸件ヲ為ス可シ

第一　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第二　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第五百八十五條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第五百八十六條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第五百八十七條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第五百八十八條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第五百八十九條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第五百九十條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第五百九十一條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第五百九十二條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第五百九十三條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第五百九十四條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第五百九十五條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第五百九十六條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第五百九十七條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第五百九十八條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第五百九十九條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百一條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百二條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百三條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百四條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百五條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百六條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百七條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百八條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百九條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百十條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百十一條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百十二條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百十三條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百十四條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百十五條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百十六條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百十七條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百十八條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百十九條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百二十條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百二十一條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百二十二條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百二十三條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百二十四條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百二十五條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百二十六條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百二十七條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百二十八條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百二十九條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百三十條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百三十一條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百三十二條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百三十三條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百三十四條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百三十五條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百三十六條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百三十七條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百三十八條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百三十九條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百四十條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百四十一條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百四十二條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百四十三條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百四十四條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百四十五條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百四十六條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百四十七條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百四十八條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百四十九條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百五十條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百五十一條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百五十二條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百五十三條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百五十四條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百五十五條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百五十六條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百五十七條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百五十八條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百五十九條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百六十條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百六十一條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百六十二條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百六十三條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百六十四條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百六十五條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百六十六條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百六十七條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百六十八條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百六十九條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百七十條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百七十一條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百七十二條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百七十三條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百七十四條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百七十五條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百七十六條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百七十七條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百七十八條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百七十九條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百八十條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百八十一條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百八十二條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百八十三條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百八十四條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百八十五條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百八十六條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百八十七條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百八十八條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百八十九條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百九十條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百九十一條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百九十二條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百九十三條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百九十四條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百九十五條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百九十六條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百九十七條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百九十八條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第六百九十九條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百一條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百二條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百三條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百四條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百五條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百六條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百七條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百八條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百九條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百十條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百十一條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百十二條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百十三條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百十四條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百十五條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百十六條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百十七條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百十八條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百十九條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百二十條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百二十一條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百二十二條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百二十三條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百二十四條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百二十五條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百二十六條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百二十七條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百二十八條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百二十九條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百三十條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百三十一條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百三十二條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百三十三條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百三十四條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百三十五條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百三十六條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百三十七條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百三十八條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百三十九條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百四十條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百四十一條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百四十二條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百四十三條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百四十四條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百四十五條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百四十六條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百四十七條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百四十八條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百四十九條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百五十條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百五十一條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百五十二條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百五十三條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百五十四條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百五十五條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百五十六條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百五十七條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百五十八條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百五十九條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百六十條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百六十一條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百六十二條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百六十三條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百六十四條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百六十五條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百六十六條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百六十七條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百六十八條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百六十九條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百七十條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百七十一條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百七十二條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百七十三條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百七十四條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百七十五條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百七十六條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百七十七條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百七十八條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百七十九條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百八十條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百八十一條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百八十二條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百八十三條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百八十四條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百八十五條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百八十六條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百八十七條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百八十八條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百八十九條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百九十條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百九十一條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百九十二條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百九十三條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百九十四條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百九十五條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百九十六條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百九十七條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百九十八條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第七百九十九條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百一條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百二條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百三條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百四條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百五條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百六條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百七條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百八條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百九條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百十條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百十一條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百十二條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百十三條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百十四條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百十五條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百十六條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百十七條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百十八條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百十九條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百二十條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百二十一條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百二十二條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百二十三條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百二十四條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百二十五條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百二十六條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百二十七條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百二十八條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百二十九條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百三十條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百三十一條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百三十二條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百三十三條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百三十四條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百三十五條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百三十六條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百三十七條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百三十八條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百三十九條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百四十條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百四十一條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百四十二條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百四十三條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百四十四條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百四十五條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百四十六條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百四十七條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百四十八條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百四十九條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百五十條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百五十一條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百五十二條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百五十三條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百五十四條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百五十五條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百五十六條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百五十七條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百五十八條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百五十九條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百六十條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百六十一條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百六十二條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百六十三條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百六十四條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百六十五條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百六十六條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百六十七條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百六十八條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百六十九條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百七十條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百七十一條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百七十二條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百七十三條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百七十四條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百七十五條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百七十六條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百七十七條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百七十八條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百七十九條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百八十條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百八十一條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百八十二條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百八十三條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百八十四條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百八十五條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百八十六條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百八十七條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百八十八條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百八十九條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百九十條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百九十一條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百九十二條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百九十三條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百九十四條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百九十五條　仮執行ノ判決ヲ受ケタル時ハ其判決ヲ債務者カ疏明シタル時

第八百九十六條　仮執行

第五百八十五條　總テノ場合ニ於テハ申立ニ因リ裁判所ノ意見ヲ以テ假執行ヲ豫メ保證ヲ立ツルヿニ繫カラシムルヿヲ得

債權者カ執行ノ前ニ保證ヲ立ツルヿヲ提供セサル片ハ債務者ノ申立ニ因リ保證ヲ立ツルニ因テ執行ヲ免カルヽヿヲ之ニ許スヿヲ要ス

第五百八十六條　假執行ニ關スル申立ハ判決ニ接着スル口頭辯論ノ終結ノ前ニ之ヲ為スヿヲ要ス

第五百八十七條　假執行ニ付テノ裁判ハ判決式文ニ之ヲ掲ク可シ

第五百八十八條　職權ヲ以テ判決ノ假執行ヲ宣言ス可キ場合ニ於テ假執行ニ付テノ裁判カ為サレサル片又ハ判決ノ假執行ヲ宣言ス可キ債權者ノ申立カ看過セラレタル片ハ第三百八十九條及ヒ第三百九十條ノ規定ニ從ヒ判決ノ補充ヲ為スヿヲ得

第五百八十九條　假執行ニ付テノ裁判ニ對スル不服申立ハ本事件ノ裁判ニ對シテ控訴ヲ起スヿヲ以テノミ之ヲ為スヿヲ得

假執行ニ付キ控訴審ニ於テ發セラレタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルヿヲ得ス

民事訴訟法草案

第廿三回

五月五日配付

第五百九十條　第一審又ハ控訴審ノ判決ニシテ假執行ノ宣言ナキモノ又ハ條件付ノ假執行ノ宣言アリメルモノハ上訴ヲ以テ不服ヲ申立テラレサル部分ニ限リ口頭辯論ノ經過ヲ爲シレメル原告若クハ被告ノ申立ニ因リ上級審ニ於テ決定ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲スヲ可シ

第五百九十一條　本事件ノ前裁判又ハ假執行ノ宣言ヲ廢棄若クハ變更スル判決ノ言渡アルキハ假執行ハ其廢棄若クハ變更ノ爲サル限度ニ於テ効力ヲ失フ

假執行ノ宣言アリタル本事件ノ判決カ廢棄若クハ判決ニ基キ被告ノ

支拂ヒタルモノ又ハ給付シタルモノヽ辨償ヲ被告ノ申立ニ因リ原告ニ言渡ス可シ

第五百九十二條　假執行ハ故障ノ申立又ハ控訴若クハ上告ノ提起ニ因テ妨ケラルヽヿ無シ

然レ𪜈申立テラレタル故障若クハ上訴ニ付テノ裁判ノ爲メニ主張セラレタル情況カ法律上理由アリト見ヘ且事實上ノ点ニ付キ疏明セラレタルヰハ其裁判ヲ管轄スル裁判所ハ判決ノ發セラルヽマテ保證ヲ立テシメ若クハ之ヲ立テシメスシテ强制執行ヲ停止スルヿ又ハ保證ヲ立テシメテ强制執行ヲ継續スルヿ又ハ既ニ實施セラレタル執行行爲ヲ

保證ヲ立テシメテ廢棄スルヿヲ申立ニ因リ命スルヲ得

其命ハ豫メ口頭辯論ヲ経スシテ之ヲ發シ又急迫ナル場合ニ於テハ裁判長之ヲ發スルヿヲ得

第五百九十三條　前二條ノ規定ハ左ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一　確定判決ニ對シ訴ニ因リ再審カ爲サルヽ場合

第二　非常故障非常上訴又ハ非常再審ノ場合

第五百九十四條　此節ノ規定ニ從ヒ原告又ハ被告ニ保證ヲ立ツルノ義務ヲ負ハシメ若ク

ハ保證ヲ立ツルヿヲ許シタル場合ニ於テ其保證ハ原告又ハ被告ノ住所ニ因レル裁判籍ヲ有スル區裁判所又ハ强制執行ノ爲サル可キ地若クハ其爲サレタル地ヲ管轄スル區裁判所ニ於テ之ヲ立ツルヿヲ得

保證ヲ立テタルヿニ付テハ求ニ因リ證明書ヲ付與ス可シ

第五百九十五條　外國裁判所ノ判決ニ因レル强制執行ハ本邦ノ裁判所ニ於テ執行判決ヲ以テ其適法ナルヿヲ言渡シタルトキハ之ヲ爲スヿヲ得

執行判決ヲ發スルノ訴ニ付テハ債務者ノ住所ニ因レル管轄籍ヲ有スル區裁判所又ハ地

方裁判所之ヲ管轄シ又此ノ如キ裁判所ナキトキハ第二十條ノ規定ニ從ヒ債務者ニ對スル訴ヲ管轄スル裁判所之ヲ管轄ス

外國ニ於ケル判決ニ包含セル裁判ノ正否ハ之ヲ調査スルヿヲ得ス

執行判決ヲ發スルノ訴ハ左ノ場合ニ於テハ之ヲ却下ス可シ

第一　外國裁判所ノ判決ノ確定ト爲リタルヿカ其裁判所ニ因リテ證明セラレサルトキ

第二　本邦ノ法律ニ依リ禁セラレタル行爲ヲ執行セシム可キトキ

第三　國際條約ニ因リ相互ナル可キヿカ保セラレタルトキ

其執行ハ此法律ノ成規ニ從フ

第五百九十六條　強制執行ハ執行ノ命令ヲ付シタル判決書ノ正本〔執行力アル正本〕ニ基キ之ヲ爲ス

執行命令ヲ得ントスル申立ハ第一番ノ受訴裁判所ニ之ヲ爲ス可シ然レ𪜈爭訟カ上級裁判所ノ繫屬中ニ在ルトキハ其裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

其申立ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スヿヲ得

第五百九十七條　執行命令ハ判決書ノ正本ノ末尾ニ之ヲ附記ス

其文左ノ如シ

前記ノ正本ハ某〔原告又ハ被告ノ表示〕ニ對

スル強制執行ノ命令ヲ以テ某〔被告又ハ原告ノ表示〕ニ之ヲ付與ス

執行命令ノ撿認ハ裁判長之ヲ爲ス

第五百九十八條　判決書ノ執行力アル正本ハ其判決カ確定ト爲リタルトキ又ハ假執行ノ宣言アリタルトキニ限リ之ヲ付與ス

判決言渡ノ際不在ナリシ原告又ハ被告ニ對シテハ判決書ノ送達アリタル後始メテ執行力アル正本ヲ付與スルヿヲ得

判決ノ執行カ其包有事項ニ從ヒ保證ヲ立ツルヿニ非サル條件ニ繫ル場合ニ於テハ債權者カ信スルニ足ル可キ證明書ヲ以テ其條件ノ履行ヲ證スルトキニ限リ執行力アル正本ヲ

付與スルヿヲ許ス

第五百九十九條　執行力アル正本ハ判決ニ表示シタル債權者ノ爲メニノミ及ヒ判決ニ表示シタル債務者ニ對シテノミ之ヲ付與スルヿヲ得但左ノ場合ハ之ヲ例外トス

第一　判決ニ表示シタル債權者カ死亡シ相續人之ニ代ハリタルトキハ執行カアル正本ハ相續人ノ爲メ又ハ相續人ニ對シ之ヲ付與スルヿヲ得

第二　判決ニ表示シタル債權者又ハ債務者ニシテ戸主タル者カ其地位ヲ辭シ又ハ之ヲ失ヒ他ノ戸主之ニ代ハリタルトキハ執行カアル正本ハ新戸主之ニ代ハリタルトキハ執行カアル正本ハ新戸主ノ爲メ又ハ新戸主ニ對シテ之ヲ付與スルヿヲ得

右ニ掲ケタル證書ハ其申立人信スルニ足ルヘキ證明書ニ因リテ之ヲ證スヘシ

第六百條　執行カアル正本ハ債務者ニ之ヲ交付シ其交付前裁判所書記ハ判決書ノ原本ニ如何ナル原告又ハ被告ノ爲メ如何ナル被告又ハ原告ニ對シ且如何ナル時日ニ其正本ヲ交付スルヤヲ記スヘシ

第六百一條　債權者カ執行カアル正本數通ヲ求メ又ハ前ニ付與シタル正本ヲ返還セスシテ更ニ同一判決ノ正本ヲ求ムルトキハ之ヲ付與スルノ前相手方ヲ審訊スルヿヲ得

口頭若クハ書面ヲ以テ

執行カアル正本数通ヲ付與シ又ハ更ニ之ヲ付與シタルトキハ相手方ヲ審訊セサル場合ニ限リ其旨ヲ相手方ニ知ラシム可シ

正本数通ヲ付與シ又ハ更ニ之ヲ付與シタルトキハ其旨ヲ明記ス可シ

第六百二條　執行カアル正本ノ効力ハ之ヲ付與シタル裁判所ノ管轄内ニ止マラスシテ総テ本邦ノ裁判區域内ニ及フモノトス

第六百三條　强制執行ハ債権者ノ責任ヲ以テ之ヲ爲ス

第六百四條　强制執行ハ此法律ニ於テ別段ノ定メ有ラサル限リハ執達吏之ヲ實施ス

執達吏ハ債権者ノ委任ニ因リ行爲ヲ爲シ且

債権者及ヒ其他ノ利害関係人ニ對シ職務上ノ義務違背ヨリ生シタル損害ノ責ニ任ス

第六百五條　此法律ニ於テ裁判所ニ任セタル執行行爲ノ命又ハ其行爲ノ補助ハ執行裁判所トシテ區裁判所ノ管轄ニ属ス

法律ニ於テ別段ニ裁判所ヲ指定セサル各箇ノ場合ニ於テハ執行手續ノ爲サル可キ地又ハ之ヲ爲シタル地ヲ管轄スル區裁判所ヲ以テ執行裁判所ト看做ス

執行裁判所ノ裁判命令ハ豫メ口頭辯論ヲ経スシテ之ヲ發スルヿヲ得

第六百六條　債権者ハ一箇ノ地又ハ一箇ノ方法ニテ强制執行ヲ爲スニ因リ完全ナル辨償

ヲ得ル能ハサルトキハ数通ノ執行力アル正本ニ基キ数箇ノ地又ハ数箇ノ方法ニテ同時ニ強制執行ヲ爲スノ權利アリ

第六百七條　債權者カ執行行爲ノ爲サル可キ地ヲ管轄スル區裁判所ノ所在地ニ住セサルトキハ同地ニ住スル第三者ノ方ニ於テ住所ヲ選定シ其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可シ又債務者ニハ強制執行ニ着手スルノ前執達吏ヨリ其旨ヲ通知セシム可シ

強制執行ハ前項ニ掲ケタル手續ヲ爲シタル後ニ非サレハ之ヲ始ムルヿヲ得ス

第六百八條　請求ノ主張カ或ル暦日ノ到来ニ繫ルトキハ其暦日ノ満了シタル後ニ非サレハ

強制執行ヲ始ムルヿヲ得ス

若シ執行カ債權者ヨリ保證ヲ立ツルヿニ繫ルトキハ債權者カ保證ヲ立テタルヿニ関スル裁判上ノ證明書ヲ提出シタル後ニ非サレハ其執行ヲ始ムルヿヲ得ス

第六百九條　若シ執行力アル正本ノ付與ニ對シ債務者ヨリ又其付與ノ拒絶ニ對シ債權者ヨリ抗告ヲ起シタルトキハ不服ノ申立ヲ受ケタル裁判ヲ爲セル裁判所及ヒ抗告裁判所ハ裁判ヲ爲スノ前假處分ヲ爲スヿヲ得殊ニ保證ヲ立テシメ若クハ之ヲ立テシメスシテ強制執行ヲ一時停止シ又ハ保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ継續スルヲ命スルヿヲ得

第六百十條　判決ニ因テ確定セラレタル請求
其モノニ關スル債務者ノ異議ハ其判決ヲ發
シタル後義務ノ理由タル事實消滅シタル場
合ニ限リ之ヲ許ス其異議ハ強制執行ヲ爲ス債
權者ニ對シ異議ノ訴ヲ以テ強制執行ノ停止ノ
爲メ第一審ノ受訴裁判所ニ之ヲ主張スルコトヲ要ス
然レトモ債務者カ數箇ノ異議ヲ有スルトキハ同
時ニ之ヲ主張スルニ因リ債權者ニ對シテ主張シ又債務者ニ於

第六百十一條　第三者カ強制執行ノ目的物ニ
付キ所有權ヲ有シ又ハ其他目的物ノ讓渡若
クハ債權者ニ對スル其還付ヲ妨クルノ權利
ヲ有スルトキハ其強制執行ニ對シ第三異議ノ訴
ニ因リ債權者ニ對シテ其異議ヲ主張スルコトヲ得
テ其異議ヲ理由アリト認メサル場合ニ於テ
ハ債權者ト債務者トニ對シテ之ヲ主張スルコトヲ可
シ

其訴カ債權者ト債務者トニ對シテ起サルヽ
キハ此兩人ヲ以テ第六十六條ノ意義ニ於ケ
ル共同爭訟人トス

其訴ニ付テハ執行裁判所管轄ヲ有スト雖モ
爭訟物カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ執
行裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所之
カ管轄ヲ有ス

第六百十二條　強制執行ノ継続ハ前二條ノ場合ニ於テ異議ノ許ノ提起ニ因テ妨ケラレス然レ𪜈異議ノ為メニ張セラレタル情況カ法律上理由アリト見ヘ且事實上ノ点ニ付キ疏明セラレタル𪜈ハ異議ノ許ニ付テノ裁判ヲ管轄スル裁判所ハ判決ノ發セラルヽマテ保證ヲ立テシメスシテ強制執行ヲ停止スルヿ又ハ保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ継続スルヿ又ハ其為シタル執行處分ヲ保證ヲ立テシメテ廢棄スルヿヲ申立ニ因リ命スルヿヲ得前條ノ場合ニ於テハ執行處分ノ廢棄ハ第三者ヨリ保證ヲ立テサルモノヲ許スヿヲ可シ

其命ハ豫メ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ發シ又急迫ナル場合ニ於テハ裁判長之ヲ發スル丁ヲ得

急迫ナル場合ニ於テハ執行裁判所モ亦此権利ヲ行用スル丁ヲ得此場合ニ於テハ同時ニ其裁判所ハ異議ノ訴ヲ管轄スル裁判所ノ裁判書ヲ提出セシムル為メ相當ノ期間ヲ定ム可シ其期間ヲ徒過シタル片ハ債権者ノ申立ニ因リ強制執行ヲ継續ス

第六百十三條　受訴裁判所ハ異議ノ訴ニ付キ裁判スル判決ニ於テ前條ニ掲ケタル命ヲ發シ又ハ既ニ發シタル命ヲ廢棄シ變更シ若クハ認可スル丁ヲ得

其判決ニ付テハ職権ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ為ス可シ

其不服申立ニ付テハ第五百八十九條ノ規定ヲ準用ス

第六百十四條　強制執行ハ左ノ書類ノ提出セラレタル場合ニ於テ之ヲ停止シ又ハ之ヲ制限ス可シ

第一　執行セラル可キ判決若クハ其假執行カ廢棄セラルヽ丁又ハ強制執行カ許サレストシテ宣言セラレ若クハ其停止カ命セラレタル丁ノ顕ハルヽ執行カアル裁判書ノ正本

第二　執行又ハ執行處分ノ一時停止カ命セ

テレタルトノ顕ハ、裁判書ノ正本

第三　執行ヲ免カルヽ為メ保證ヲ立テタルトノ證明書

第四　債權者カ執行セラルヽ可キ判決ノ發セラレタル後辨償ヲ受ケ又ハ義務履行ノ猶豫ヲ承認シタルトノ顕ハル、證書

第五　執行セラルヽ可キ判決ノ發セラレタル後債權者ニ辨償ヲ為ス為メ必要ナル金額カ債權者ニ拂渡ス為メ郵便局又ハ銀行ニ拂込マレタルトノ顕ハル、郵便為替券若ハ為替證券

第六百十五條　假執行ノ宣言アリタル判決又ハ確定ト為リタル判決ハ前條第一號ノ意義ニ於テ執行命令ヲ要セスシテ直チニ執行セラルヽ可シ

其確定ト為リタルトハ大審院ノ判決ニ限リ證明ナクシテ之ヲ認ムルトヲ得但大審院ノ判決ナルトキハ其確定ト為リタルヲ證明スルトヲ要ス

抗告審ニ於テ發セラレタル裁判ト假執行ノ宣言アリタル判決ヲ本事件ニ付キ又ハ假執行ニ付キ廢棄シ若クハ變更スル判決トハ確定ト為ル前ニ於テモ強制執行ノ停止ヲ為サヽルニ足ルモノトス

第六百十六條　若シ第六百十四條第一號及ヒ第二號ノ場合ニ於テ提出セラレタル證書ニ

因リ強制執行ノ停止又ハ執行處分ノ廢棄カ
豫メ保證ヲ立ツル丁ニ繫ル丁ノ顯ハルヽ𪜈
ハ第六百八條第二項ノ規定ヲ準用ス

第六百十七條　第六百十四條第一號及ヒ第三
號ノ場合ニ於テハ既ニ為サレタル執行處分
ヲモ廢棄ス可シ第二號ノ場合ニ於テハ其裁
判ニ因リ從前ノ執行行為ノ廢棄ヲ命セサル
𪜈ニ限リ既ニ為サレタル執行處分ヲ一時存
立セシム第四號及ヒ第五號ノ場合ニ於テモ
亦第二號ノ場合ニ同シト雖モ債權者ノ求ア
ル𪜈ハ強制執行ヲ始メ又ハ之ヲ継續ス可シ」
債權者カ義務履行ノ猶豫ノミヲ承諾シタル
𪜈ハ不動産又ハ船舶ノ強制執行ニ関スル規

定ヲ留保シテ猶豫期間ノ満了後直チニ強制
執行ヲ始メ又ハ之ヲ継續ス可シ

第六百十八條　強制執行ノ停止ノ義務ヲ生セ
シム可キ事實ヲ知リテ適當ナル時間ニ必要
ノ處分ヲ為ス丁ヲ怠タリシ債權者ハ此ニ因
リテ生スル損害ノ責ニ任ス

第六百十九條　債務者強制執行ノ始マリタル
後ニ死亡スル𪜈ハ強制執行ハ遺産ニ對シ直
チニ之ヲ継續ス可シ
債務者ノ立會ヲ要スル執行行為カ實施セラ
ル可キ𪜈ハ相續人未タ其地位ヲ占ムルニ至
ラス又ハ相續人ノ所在不分明ナル場合ニ限
リ債權者ノ申立ニ因リ執行裁判所ハ遺産又

ハ相續人ノ為メ臨時代人ヲ任スル可シ

第六百二十條　戸主タリシ債務者カ強制執行ノ始マリタル後ニ其地位ヲ辭シ又ハ之ヲ失ヒタル時ハ其變更ノ生シタル時ニ債務者ノ所持セシ財産ニ付キ前條第一項ノ規定ヲ準用ス

第六百二十一條　強制執行ノ費用ハ其必要ナリシ部分ニ限リ債務者ノ負擔ニ歸ス

其費用ハ強制執行ノ基本タル判決カ本事件ニ付キ廢棄セラレタルトキハ債務者之ヲ辨償スル可シ

第六百二十二條　執行為ノ際債務者ニ為ス可キ送達及ヒ通知ハ債務者ノ所在不分明ナルトキ又ハ外國ニ在ルトキハ之ヲ必要トセス

第六百二十三條　執行又ハ其停止ノ為メ官廳ノ援助ヲ必要トスルトキハ裁判所ハ其援助ヲ官廳ニ求ムル可シ

第六百二十四條　強制執行カ本邦裁判所ニ司法共助ヲ為ス官廳ノ在ル外國ニ於テ為サル可キトキハ債權者ノ申立ニ因リ第一審裁判所

ハ必要ナル通訳ヲ發スル為メ成規ノ方法
ヲ以テ司法大臣ヨリ申ス可シ

強制執行カ本邦人ニ付キ裁判権ヲ行用スル
外國駐劄ノ本邦領事ニ因リテ為サレ得ヘキ
モノ亦同シ

第六百二十五條　強制執行ハ左ノ諸件ニ因リ
テモ亦之ヲ為スヲ得

第一　費用確定ノ命令及ヒ其他ノ裁判但其
裁判ハ抗告ヲ以テノミ不服ヲ申立ツルヲ
得又ハ總テ如何ナル不服ヲモ申立テラ
レサルモノニ限ル

第二　督促手續ニ於テ發セラレタル支拂命
令但異議期間ノ滿了シタル後ニ限ル

第三　第二百五十一條ノ場合ニ於ケル認諾
第四　訴ノ提起後爭訟ノ全部又ハ一分ヲ解
止スル為メ受訴裁判所ニ於テ又ハ受命判
事若クハ受託判事ノ面前ニ於テ為シタル
和解
第五　和解手續ニ於テ為シタル和解
第六　本邦ノ公證人カ其權限内ニ於テ成規
ノ方式ニ依リ作リタル證書但其證書ハ定
マリタル金額ノ支拂又ハ他ノ代補物若ク
ハ有價證券ノ定マリタル數量ノ給付ヲ以
テ目的トスル請求ニ付キ作ラレタルモノ
ニ限ル
前記ノ債務名義ニ因レル強制執行ニハ第五

百九十六條以下ノ規定ヲ準用ス

第六百二十六條　執行カアル正本ヲ陸軍若ク
ハ海軍ニ屬スル軍人軍屬又ハ海陸軍文官ニ
付與スル時ハ其上官ハ其旨ヲ債務者ノ直近上班ノ軍
事官廳ニ通知スルコトヲ可シ

第六百二十七條　國、府縣、區郡、町村及ヒ社寺ニ
對シテハ裁判上ノ強制執行ヲ為スコトヲ得ス」
前項ノ無形人ニ對シ執行ヲ為スヘキ債務名
義ノ執行ニ關スル訴ハ債權者ノ申立ニ因リ
第一審ノ受訴裁判所ハ必要ノ處分ヲ為メ管
轄行政官廳ニ囑託スルコトヲ可シ若シ其官廳カ之ニ
應セス又ハ適式ニ之ニ應セサルトキハ成規ノ
方法ヲ以テ司法大臣ニ上申スルコトヲ可シ

第二節　執達吏ノ執行官吏タル職務

第六百二十八條　執達吏ハ執行力アル正本ヲ所持スル片ニ限リ執行行為ヲ為スノ権利ヲ有ス

第六百二十九條　強制執行ノ委任カ執行力アル正本ノ交付ヲ以テ債権者又ハ其訴訟代人ヨリ為サレタル片ハ執達吏ハ特別ノ委任ヲ受ケサル片ト雖モ支拂及ヒ其他ノ給付ヲ受取リ受取リタルモノニ付キ有効ニ受取ノ證書ヲ作リ且債務者ニ於テ其義務ヲ完全ニ盡シタル片ハ債務者ニ執行力アル正本ヲ交付スルノ権利アリ

第六百三十條　執達吏ハ執行力アル正本ヲ所

持スルノミニ因リテ債務者及ヒ第三者ニ對シ強制執行及ヒ前條ニ掲ケタル行為ヲ實施スルノ権利アルモノトス執達吏ハ其正本ヲ携帯シ當事者ノ求ニ因リ資格ヲ證スル為メ之ヲ提示ス可シ

第六百三十一條　執達吏ハ執行命令書ニ表示セラレタル債権者ノ為メニノミ及ヒ債務者ニ對シテノミ執行ノ委任ヲ受クルヿヲ得委任者ニ於テ自身カ表示セラレタル債権者ニ代ハリタルヿ又ハ第三者カ表示セラレタル債務者ニ代ハリタルヿヲ主張スル片ハ執達吏ハ第六百十九條及ヒ第六百二十條ノ規定ヲ留保シテ執行ヲ止メ且其委任者ヲシテ

必要ノ申立ヲ裁判所ニ為サシム可シ

第六百三十二條　債権者ハ自費ヲ以テ強制執行ニ立會フノ権利アリ

第六百三十三條　曜日出前、日没後ノ時間及ヒ日曜并ニ普通ノ祝祭日ニハ執行裁判所ノ明許アルニ非サレハ執行為ヲ為スヿヲ得ス其許可ヲ與フルニ命令書ハ強制執行ノ際之ヲ提示ス可シ

第六百三十四條　執達吏ハ執行ニ着手スルノ前債務者自身ニ出會ヒタルヤハ債務者ニ對シ任意ノ給付ヲ催告ス可シ若シ債務者ニ出會ハサレヤ其家族ニ出會フタルヤハ之ニ對シ催告ヲ為ス可シ又債務者及ヒ其家族ニ出

會ハス又ハ任意ノ給付ノ為メノ催告カ無効ナリシヤハ執行ヲ始メ且債権者ニ完全ノ辨濟ヲ為シ及ヒ其生シタル費用ヲ償フニ至ルマテ執行ヲ継續ス可シ

民事訴訟法草案

第二十四回

第六百三十五條　執達吏ハ債務者又ハ第三者ノ異議若クハ抵抗ニ因リテ執行ヲ止ムルヿヲ得ス

何人ニテモ或ル理由ニ依リ異議ヲ述ヘント欲スル者アル時ハ其旨ヲ調書ニ記載シタル上之ヲシテ裁判所ニ異議ヲ述ヘシム可シ

第六百三十六條　執行ハ成ル可ク速ニ其目的ヲ達スル様之ヲ實施ス可シト雖モ其實施ニ因リ債務者ニ無用ノ損失ヲ被ムラシメサルヿヲ要ス

執達吏ハ冗費ヲ生スルヿ無ク且執行ノ目的ヲ害セサル場合ニ限リ適宜ニ債権者及ヒ債務者ノ希望ヲ顧ミル可シ

第六百三十七條　執達吏ハ執行ノ目的ニ付キ必要トスル場合ニ於テハ債務者ノ住居及ヒ各貯藏所ヲ搜索シ閉鎖シタル家屋并ニ房室ノ戸及ヒ貯藏所ヲ成ル可ク注意シテ之ヲ開キ又ハ適當ノ職工ヲシテ之ヲ開カシムルノ權利アリ

抵拒アル場合ニ於テハ執達吏ハ威力ヲ用ヰ且警察上ノ援助ヲ求ムルヿヲ得然レ𪜈執達吏ハ此場合ニ於テ郡長、區長、戸長又ハ隣佑二人ヲ證人トシテ立會ハシムルヿヲ要ス

若シ債務者ノ住居ニ於テ執行行為ヲ為スニ際シ債務者ニモ又其家族若クハ其雇人ニモ出會ハサルヰニモ、亦同シ

第六百三十八條　執達吏ハ強制執行ノ際債務者ノ有形動産ニ對スル強制執行ヲ以テ執行ノ費用ヲモ亦取立ツ可シ

執達吏ノ手數料并ニ立替金、執行力アル正本付與ノ費用及ヒ其他強制執行ヲ為ス為メ債權者ニ生シタル必要ナル裁判外ノ費用ハ前項ノ費用ニ屬ス

右ニ付テハ金錢ノ債權ノ為メニスル強制執行ニ係ルト其他ノ強制執行ニ係ルトヲ區別セス

第六百三十九條　執達吏ハ債務者其義務ヲ完全ニ盡シタルヰハ執行力アル正本ヲ之ニ交付ス可シ又其義務ノ一分ヲ盡シタルヰハ執

行カアル正本ニ其旨ヲ附記シ且其領收證書ヲ債務者ニ付與ス可シ

債務者カ後ニ債権者ニ對シ領收證書ヲ求ムルノ権利ハ前項ノ規定ニ因テ妨ケラルヽヿ無シ

第六百四十條　執達吏ハ執行行為ニ付キ直チニ調書ヲ作ル可シ

其調書ニハ左ノ諸件ヲ掲クルヿヲ要ス

第一　爭訟標目

第二　執行カアル正本ノ表示

第三　執行行為ノ目的物及ヒ其重要ナル情況ノ畧記

第四　執行ニ與カリタル各人ノ表示

第五　右各人ノ署名捺印

第六　調書ヲ當事者ニ讀聞セ又ハ閲覧ノ為メ之ニ提示シタルヿ及ヒ其承諾ノ後署名捺印アリタルヿノ明示

第五号及ヒ第六号ニ掲ケタル要件ヲ具備スルヿ能ハサルトキハ其理由ヲ明示ス可シ

債権者及ヒ債務者ニハ其求ニ因リ調書ノ謄本ヲ付與ス

第六百四十一條　執行行為ニ属スル催告及ヒ其他ノ通知ハ執達吏口頭ヲ以テ為シ且調書ニ之ヲ記載ス可シ

若シ口頭ヲ以テ催告又ハ通知ヲ為スヿ能ハサルトキハ第百六十四條及ヒ第百六十八條乃

至第百七十三條ノ規定ヲ準用シテ署名捺印ニ因リ認證セラレタル調書ノ謄本ヲ送達シ且特別ノ送達證書ヲ作ラサル限リハ調書ノ原本ニ其送達アリタルコトヲ記載ス可シ若シ送達カ強制執行ノ地ニ於テモ又執行裁判所ノ管轄内ニ於テモ為サル、コト能ハサルトキハ第七百四十條第二項ノ規定ヲ留保シテ催告又ハ通知ヲ受ク可キ者ニ郵便ヲ以テ調書ノ謄本ヲ送致シ且郵便ニ之ヲ交付シタルコトヲ調書ノ原本ニ記載ス可シ

第六百四十二條

執達吏ハ此法律ニ成規ナキ場合ト雖モ債權者ノ利益ヲ保護スル為メ要用トスルトキハ委任ノ完結スル前出席セサル債權者ニ對シ各執行行為ノ結果ヲ通知ス可シ

第六百十四條ノ場合ノ一ニ於テ債權者ノ指圖ナクシテ強制執行ノ停止又ハ制限ヲ為シタルトキハ執達吏ハ其事ニ付キ調書ヲ作リ債權者ニ之ヲ通知ス可シ其調書ニハ執行ノ停止又ハ制限ヲ為スノ憑據タル提出書類ヲ詳細ニ表示シ且其為サレタル命ヲ明示ス可シ

第六百四十三條

債權者ハ強制執行ヲ委任スル為メ裁判所書記ノ補助ヲ求ムルコトヲ得裁判所書記ノ委任シタル執達吏ハ債權者ノ委任シタルモノト看做ス

第六百四十四條

執達吏ハ其受ケタル強制執

行ノ委任ニ付キ帳簿ヲ作リ各強制執行ニ付テハ総テ同一ノ事件ニ関スル書類ヲ互ニ連接セシムル様記録ヲ編製シ其帳簿及ヒ記録ヲ整頓シ及ヒ保存スルノ責ニ任ス

執行手續ニ参カリタル各人ニハ其求ニ因リ執達吏ノ面前ニ於テ記録ノ閲覧ヲ許シ且謄寫料ヲ拂ハシメテ各書類ノ謄本ヲ付與スルヿヲ要ス

第六百四十五條 執達吏カ此法律ノ規定又ハ裁判上ノ命ニ依リ取立テタル金銭若クハ有價證券ヲ裁判所ニ預ク可キ又ハ執行行為ニ付キ報告ヲ為ス可キ片ハ署名捺印ニ因リ認證セラレタル調書ノ謄本及ヒ執行カアル

正本ヲ其納付書若クハ報告書ニ添附ス可シ

執達吏カ執行カアル正本尚ホ要用トスル片ハ裁判所ハ其正本ヲ之ニ還付ス可シ但必要ナル場合ニ於テハ其認證セラレタル謄本ヲ留置ク可シ

第六百四十六條 債権者、債務者及ヒ執行手續ニ参カリタル各第三者ハ執達吏ノ為シタル手續ニ関シ執行裁判所ニ抗告ヲ為スヿヲ得執行裁判所ハ抗告ヲ理由アリトスル片ハ其聽届ノ為メ必要ナル命ヲ發ス

執達吏カ執行委任ヲ引受クルヿヲ拒ミ若クハ執行行為ヲ委任ニ從ヒテ實施スルヿヲ拒ミタル片又ハ執達吏ノ計算セル手數料ニ付

キ異議アル片ハ執行裁判所ハ其裁判ヲ為ス
ノ権アリ

第二章　金銭ノ債権ニ付テノ強制執行

第一節　動産ニ対スル強制執行

第一款　有形動産ニ対スル強制執行

第六百四十七條　有形動産ノ差押ハ執達吏カ之ヲ占有スルヲ以テ之ヲ為ス

第六百四十八條　有形動産ノ差押ハ執達吏カ公債證書、株券及ヒ其他ノ有價證券ハ此規定ノ意義ニ於ケル有形動産ニ属ス

為替證券及ニ之ニ類スル證券並ニ所有権若クハ債権ノ権利名義ヲ成ス證書ハ有形動産ト同一ニ之ヲ差押フルヿヲ得ス然レ氏執達

又ハ特ニ債権者ノ求アルキ又ハ他ニ充分ナル償格ヲ有スル弁償物存セサルキハ債権者ノ為メ他ノ執行方法ノ用ニ供スルノ目的ニテ右ノ證券又ハ證書ヲ假ニ差押フ可シ但此目的ノ為メ其證券又ハ證書ヲ債務者ヨリ取上ケ之ヲ封緘シ表書捺印シテ郡長、區長若クハ戸長ニ預ク可シ

第六百五十條　差押ハ執行カアル正本ニ明示シタル債権ノ元金、利息并ニ費用ヲ債権者ニ弁償スル為メ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フ為メ必要ナルモノ、外ニ及フヘカラス

若シ現存スル物ノ一分ヲ以テ右ノ目的ヲ達スルニ足ルキハ債務者ハ現金及ヒ有價證券ヲ除キ差押ヲ免カルル可キ物ヲ選定スルコトヲ得

全ク價格ナキ物ノミニ存在スルキ又ハ存在スルモ強制執行ノ費用ヲ償フ見込ナキキハ執達吏ハ其差押ヲ止ム可シ

第六百五十一條　債権者ハ差押ヘタル物ニ付キ契約ヲ以テ得取シタル質権ニ均シキ質権ヲ差押ニ因テ得取ス

債権者ハ此質権ニ依リ他ノ債権者ニ先チテ弁償ヲ受クルコトヲ得債権者ハ差押物ヲ以テ弁償ヲ受ケ又ハ債務者ノ財産ニ付キ破産カ開始セラルヽキハ破産財團ニ對シテモ亦此権利ヲ

有スル然レドモ其質権ハ差押ノ前差押物ニ付キ契約ニ因リ質権ヲ有効ニ得取シタル債権者又ハ民法ニ従ヒ特別ノ優先権及ヒ破産ニ於テ別除権ヲ有スル債権者ノ権利ニ後ルヽモノトス

第六百五十二條　前ノ差押ニ因リ得取シタル質権ハ後ノ差押ニ因リ得取シタル質権ニ先ヲツモノトス

第六百五十二條ニ付キ質権又ハ優先権ヲ有スル第三者カ差押ヲ受ケ可キ物有セサルキハ差押ヲ妨クルノ得ス然レドモ第六百十一條ノ規定ニ従ヒ訴ヲ以テ賣得金ニ付キ優先ノ辨償ヲ請求スルノ権利ハ此カ為メ妨ケラレスト雖モ此場合ニ於テ裁判所ハ請求ノ為メ主張セラレタル情狀カ法律上理由アリト見ヘ且事實上ノ点ニ付キ疏明セラレタルキハ賣得金ヲ裁判所書記ニ預クルノ命ス可シ但此事ニ付テハ第六百十三條ノ規定ヲ準用ス

第六百五十三條　執達吏ハ差押ヘタル現金ニテ直ヲニ債権者ニ支拂フノ得サルモノ及ヒ差押ヘタル高價物ヲ封緘シ表書捺印シテ郡長區長又ハ戸長ニ預ク可シ

有價證券ノ差押ヘタルキハ現狀ノ届書ト共ニ裁判所書記ニ之ヲ差出ス可シ

第六百五十四條　執達吏ハ其他ノ差押ヘタル物ヲ債務者ヨリ取上ケ郡長、區長、戸長又ハ差

押ノ地ニ住スル確實ニシテ支拂資カアル各箇人ニ保管セシムルヲ通例トス此場合ニ於テ執達吏ハ保管人ヲシテ其保管ニ付セラレタル物ヲ確收シタルヿヲ證セシメ又保管人ノ求ニ因リ之ニ其物ノ目録ヲ交付ス可シ保管人カ報酬ヲ請求スル片ハ協議ノ上豫メ相當ニ金額ヲ確定ス可シ

執達吏ハ差押ヘタル物ノ確ナル收置及ヒ保管ニ付キ其責ニ任ス

第六百五十五條　執達吏ハ左ノ場合ニ限リ差押ヘタル物ヲ債務者ヨリ取上クルノ例規ニ從ハサルヿヲ得

第一　債權者ノ承諾アル片

第二　物ノ運搬カ其性質ニ因リ著シキ困難又ハ不相應ノ費用ヲ生セシム可キ片

此場合ニ於テハ差押ノ効力ハ封印又ハ其他ノ方法ヲ以テ差押ヲ判然ナラシムルヿニ因テ生ス

此目的ノ為メ各箇ノ物ニ封印ス可キヤ又ハ差押物ヲ容レタル及ヒ外包、容器、場所等ニノミニ封印ス可キヤハ執達吏其物ノ性質及ヒ其他ノ情状ニ因リ之ヲ定ム可シ

差押物ノ性質ニ因リ封印スルヿ能ハサル片ハ執達吏ハ差押物ノ傍側ニ於テ各人ノ目ニ觸レ易キ箇所ニ自己ノ署名捺印シタル廣告書ヲ貼付シ其差押ヘラレタルヿヲ判然ナラ

シム可シ又各箇ノ場合ニ於テ必要トスル片
ハ看守人ヲ置ク可シ若シ其看守人カ報酬ヲ
請求スル片ハ前條第二項ノ規定ヲ適用ス

第六百五十六條　債務者ノ占有ニ係ル物ニ付
キ第三者ヨリ自己ノ所有物ナル丁若クハ自
己ノ質取シタル物ナル丁ヲ申立テ又ハ債務
者ヨリ自己ノ所有物ニ非ラス若クハ第三者
ニ質ニ入レタル物ナル丁ヲ表示シタル場合
ニ於テ尚ホ請求ニ應ス可キ物他ニ存在スル
片又ハ債権者ノ承諾アリタル片ハ執達吏ハ
其債務者ノ占有ニ係ル物ノ差押ヲ為ス丁ヲ
得ス
若シ差押ノ際立會ハサリシ第三者ニ所有権

若クハ質権ノ属スル物ヲ差押ヘタル片ハ債
務者ハ其差押ヲ遅滞ナク第三者ニ通知スル
ノ義務アリ債務者其通知ヲ怠リタル片ハ第
三者ニ對シ此カ為メ生スル損害ノ責ニ任ス

第六百五十七條　債権者カ債務者ノ所有ニシ
テ第三者ノ占有ニ係リタリトスル物ノ差押
ヲ求ムル片ハ執達吏ハ先ツ第三者ニ對シ直
チニ引渡ヲ為シ得ヘキヤヲ問合ハス可シ第
三者カ引渡ヲ承諾シタル場合ニ於テハ債務
者ノ保管ニ係ル物ヲ差押フルト同一ノ方法
ヲ以テ其差押ヲ為ス可シ若シ第三者其物ヲ
占有セスト申立テ又ハ其引渡ヲ拒ム片ハ執
達吏ハ第三者ニ對シ之ヲ債務者ニ引渡スヲ

禁シ又債務者ニ對シ之ヲ處分スルヲ禁シ及ヒ第六百四十九條第二項ノ規定ニ從ヒ右ノ物ノ引渡請求ニ關スル債務者所持ノ證書ヲ假ニ差押フルヿノミヲ為ス可シ

右第三者ニ對スル禁止ハ債権者カ一个月内ニ其物ノ引渡ニ關スル債務者ノ請求権ヲ裁判上差押ヘタルトキニ限リ假差押ノ効力ヲ有ス

第六百五十八條　債権者カ自己ノ占有ニ係ル債務者ノ物ヲ差押ノ目的物トシテ表示シタルトキハ執達吏ハ直チニ通常ノ方法ヲ以テ其差押ヲ為ス可シ

第六百五十九條　左ノ物ハ之ヲ差押フルヿヲ得ス

第一　衣服、寢具、家具及ヒ廚具但此物カ債務者及ヒ其家族ノ為メ缺ク可カラサルトキニ限ル

第二　債務者及ヒ其家族ニ必要ナル二週日間分食料及ヒ薪炭

第三　印

第四　神體佛像及ヒ其他債務者ノ家内ニ於テ禮拜ノ用ニ供シタル物

第五　系譜

第六　債務者ノ身分ニ因リ缺ク可カラサル章服

第七　勲章及ヒ名誉ノ證標

第八　職務ヲ行フ為メ文武ノ官吏ニ必要ナル物

第九　技術、學藝又ハ業務ニ從事スル者ノ所持スル物ニシテ其職業ヲ行フ為メ缺ク可カラサルモノ但其物ハ債務者ノ選擇ニ從ヒ價額五十圓マテヲ限リトス

第十　債務者又ハ其家族ノ者ノ未タ公ニセサル發明ニ関スル物及ヒ債務者又ハ其家族ノ者ノ未タ公ニセサル稿本

第十一　特別ノ法律ヲ以テ差押ヲ禁シタル物然レ𪜈強制執行カ前項ニ掲ケタル物ノ賣渡若クハ修繕ニ因リテ生シタル請求ノ為メ為サレタル𪜈ハ其物ハ第一號、第二號及ヒ第七號ニ掲ケタルモノヲ除キ之ヲ差押フルヿヲ得

第六百六十條　執達吏ハ債務者ニ属スル孰レノ物ニ付キ前條ノ規定ニ從ヒ差押ヲ免ス可キヤヲ誠實ニ定ム可シ

差押ヲ為スヿヲ得ベキヤ否ヤノ疑ハシキ物ハ請求ニ應ス可キ物他ニ存在スル𪜈又ハ債権者ノ承諾アリタル𪜈ハ之ヲ差押フ可カラス又差押ヲ為スヿヲ得可キヤ否ニ付テノ爭訟ハ債権者若クハ債務者ノ抗告ニ因リ執行裁判所之ヲ裁判ス

第六百六十一條　差押カ債權者ノ請求ヲ完濟スルニ足ラス又ハ第六百五十條第三項ニ掲ケタル理由ニ因リテ差押ヲ止メタル時ハ執達吏ハ差押ヲ免カレタル物ヲ調書若クハ其附錄ニ記載シ戶長若クハ區長ヲ立會ハシメ且戶長若クハ區長カ債務者ノ其地ニ於テ尚ホ他ノ財產ヲ所持スルヿヲ知ラサル場合ニ於テハ之ヲ其旨ヲ調書若クハ附錄ニ記載セシム可シ若シ戶長又ハ區長カ良心ニ戾リテ其記載ヲ爲シタルトキハ債權者ニ對シ此ニ因リテ生スル損害ノ責ニ任ス

第六百六十二條　果實ハ未タ土地ヨリ離レサル前ト雖モ之ヲ差押フルヿヲ得然レトモ其差

押ハ通常ノ成熟時期ノ前一个月内ニ非サレハ之ヲ爲スヲ得ス

第六百六十三條　債務者カ兵營又ハ軍艦ニ在ルキハ執達吏ハ管轄指令官廳ニ就キ差押ノ處分ヲ請求シ其引渡サレタル差押物ニ付キ通常ノ方法ヲ以テ差押ヲ爲スヲ可シ

第六百六十四條　差押物保存ノ爲メ特別ノ處分ヲ必要トスルキハ執達吏ハ適當ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヲ可シ若シ此カ爲メ豫納ヲ要スルキハ債權者ヲシテ之ヲ豫納セシメ又債權者數名ノ關係スルキハ其要求額ノ割合ニ從ヒ其各債權者ヨリ之ヲ豫納セシムヲ可シ

要求シタル豫納金ヲ給付セサル爲メ差押物ヲ尚ホ保存スルヲ能ハス且未タ其競賣ヲ爲スヲ得サルキハ執達吏ハ差押物ヲ債務者ニ返還シ其旨ヲ差押調書ニ追記スヲ可シ

第六百六十五條　差押ノ効力ハ當然差押物ノ天然ノ産物ニモ及ヒ其産物ハ之ヲ生シタル差押物ト共ニ競賣ス

第六百六十六條　債務者及ヒ債權者雙方ノ合意アリタルキハ執達吏ハ差押物ノ競賣ニ至ルマテ其使用ヲ債務者ニ任カセ又ハ債權者ニ許スヲ得

若シ其合意成ラサルキハ債權者又ハ債務者ハ執行裁判所ニ其認可ヲ求ムルノ權利アリ但其使用ニ因リテ得タル金額ハ競賣代金ニ

之ヲ加フ

第六百六十七條　差押ニ付キ作ル可キ調書ニハ殊ニ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

第一　各箇ノ差押物ノ見積價額ヲ明示シタメル其差押物ノ詳細ナル記載

第二　執達吏カ其物ヲ占有シタルヿ及ヒ如何ニ其収置ニ付キ處分ヲ爲シタルヤノ明示

第三　債務者ニ差押ヲ通知シタルヿ又ハ後日如何ニ之ヲ知ルシム可キヤノ明示

若シ執達吏カ直チニ競賣期日ヲ定メタルトキハ調書ニ其期日ノ時并ニ地及ヒ公告ヲ爲シタル方法若クハ之ヲ爲ス可キ方法ヲモ亦明示ス可シ

第六百六十八條　執達吏ハ差押ノ實施シタル後債權者又ハ裁判所ノ特別委任ヲ要セスシテ下ノ數條ノ規定ニ從ヒ公ケノ競賣ノ方法ヲ以テ其差押物ヲ賣却ス可シ然レトモ執行裁判所ハ當事者ノ申立ニ因リ差押物ノ他賣價方法ヲ認可スルヿヲ得

第六百六十九條　競賣ハ差押ノ有リタルト同一ノ市町村ニ於テ之ヲ爲ス但債權者及ヒ債務者カ他ノ地ニ於テ之ヲ爲スヿヲ合意シ又ハ裁判所ヨリ其地ヲ指定シタルトキハ此限ニ在ラス

債權者ノ利益ノ爲メ他ノ場所ニ於テ競賣ヲ

爲スヿ必要ナル件ハ執達吏ハ直チニ其旨ヲ
債権者ニ通知シテ他ノ競賣ノ地ヲ定ムルニ
付キ債務者ト合意スルヿヲ得セシメ若シ其
合意成ラサル件ハ債権者ヲシテ其地ノ指定
ヲ裁判所ニ申立ツルヿヲ得セシム可シ

第六百七十條　競賣ノ期日ハ差押ノ際執達吏
直チニ之ヲ定ム可シ若シ當事者カ期日ヲ後
日ニ至リ定ムヘキヿヲ一致シ又ハ各箇ノ場
合ニ於テ其即時ノ指定ヲ爲スヿヲ得ハサル件
若クハ之ヲ即時ニ指定スルヿノ不適當ト見
エル件ニ限リ期日ノ指定ヲ止ム可シ

差押ノ日ト競賣ノ日トノ間ニハ少ナクモ七
日ノ時間ヲ存セサル可カラス但當事者カ競
賣ヲ更ニ早ク爲サンヿヲ合意シタルキ又ハ
差押物ヲ永ク貯藏スルニ付テノ不相應ノ費
用若クハ其物ノ價額著シク減少スルノ危害
ヲ避ケン爲メ競賣ヲ更ニ早ク爲スヿ必要ナ
ルキハ此限ニ在ラス

其他期間ハ競賣ス可キ差押物ノ性質及ヒ價
額ニ相當スル方法ヲ以テ期日ヲ公告シ得ヘ
キ樣之ヲ定ム可シ然レトモ期日ヲ差押後三十
日以上延引セシムルニハ特別ノ理由ノ存ス
ルヿヲ要ス

第六百七十一條　競賣ヲ爲スニハ豫メ公告ス

ルヿヲ要シ其公告ハ左ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スモノトス

第一　裁判所掲示板ニ於ケル掲示

第二　競賣物ノ存在スル地ニ於ケル掲示

高價ナル物ニ付テハ亦新聞紙ニ掲載スルニ因テ公告ヲ爲スヲ可シ

公告シタル期日ヲ取消シタルトキハ遲滯ナク其旨ヲ公告スヲ可シ

第六百七十二條　公告ニハ左ノ諸件ヲ包含スルヿヲ要ス

第一　競賣スヲ可キ物ノ種類ノ概略ヲ表示但高價物アルトキハ特別ニ之ヲ表示スヲ可シ

第二　競賣ノ地及ヒ日時ノ明示

第六百七十三條　競賣セラルヘキ物ノ中ニ金銀物又ハ高價物アルトキハ執達吏ハ適當ナル鑑定人ヲシテ其價額ヲ評定セシムルヿヲ要ス

第六百七十四條　土地ヨリ離レサル前ニ差押ヘタル果實ノ競賣ハ其成熟シタル後始メテ之ヲ爲スヿヲ許ス其競賣ノ爲ニ付テハ買主ニ收獲ヲ仕カスヿヲ得然レ𪜈執達吏ハ競賣ノ爲メ其收獲ヲ爲サシムルノ權利アリ

第六百七十五條　執達吏ハ期日ノ始マル前ニ差押物ノ悉皆存在スルヤ及ヒ其爲シタル封印ノ完全ナルヤヲ調査スヲ可シ若シ差押物紛失シ又ハ封印、外包、容器若クハ貯藏所ノ破損

シメル時ハ執達吏ハ其原因ノ穿鑿シ罰セラルル可キ行爲ノ嫌疑アルトキハ其行爲ヲ管轄スル官廳ニ之ヲ申告スル可シ

第六百七十六條　執行裁判所ノ判事并ニ官吏又ハ執達吏若クハ其補助人ハ差押物ヲ自身ニテモ又他人ニ由リテモ又他人ノ爲メニモ得取スルコトヲ得ス

第六百七十七條　競賣ニ付テハ左ノ賣却條件ヲ要ス

第一　最高價競買ノ爲メノ競落ハ其價額ヲ三回呼上ケタル後之ヲ爲スト雖モ其價額ニ著シク不相當ナルトキハ競落

ヲ許サス又ルコトヲ競買最高價ヲ三回呼上ケタル後物ノ競落ヲ得サリシ最高價競買人ハ其競買價額ニ拘束セラル、コト無シ

第二　競落シタル物ノ引渡ハ代金拂濟ニ對シテノミ之ヲ爲ス

第三　最高價競買人カ競賣期日ノ終ル前ニ代金支拂ニ對シ競落サレタル物ノ引渡ヲ求メサルトキハ直チニ其物ヲ再ヒ競賣ス可シ此場合ニ於テハ前ノ最高價競買人ハ競買ニ加ハルコトヲ得ス且再度ノ競落代價カ最初ノ競落代價ヨリ低キトキハ不足ヲ擔任シ其高キトキハ不足ヲ請求スルコトヲ得ス

第四　金銀物又ハ高價物ニ付テハ評定價額

ニ依テ競買ヲ爲サシメ其價額以下ノ競買價額ハ之ヲ受ケス

此條件ノ變更ハ當事者間ニ合意アルモ又ハ裁判所ノ命アルモ非サレハ之ヲ許サス

第六百七十八條　競賣ハ執達吏賣却條件ヲ高聲ニ朗讀シテ廣告シタル後之ヲ始ム

競賣物ハ各箇ニ之ヲ競買セシメ又其事ノ不適當ナルヲ認ムルモ一經メニ之ヲ競買セシメ且同時ニ之ヲ示スコトヲ要ス

第六百七十九條　競賣ハ其各箇ノ物ニ關シ競買代價ヲ數回呼上ケテ之ヲ爲ス

競買最高價ヲ三回呼上ケタル後競落ヲ爲シ又ハ其競落ヲ許サヽルコトヲ告知ス可シ

民事訴訟法草案

第二十五回

第六百八十條　執達吏ハ競賣ヲ不當ニ進ハルヲ避ケンカ為メ時々賣得金ヲ計算シ其金額カ債權者ニ辨濟シ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フニ足ルニ至ルトキハ直ナニ競賣ヲ止ムヘシ

第六百八十一條　競賣ニ關シテ作ルヘキ調書ニハ左ノ諸件ヲ掲クルヲ要ス

第一　競賣ニ因テ償フヘキ債權ノ額但強制執行ノ費用ヲ包含ス

第二　競賣期日ヲ公告シタル方法ノ明示但此ノ明示ヲ差押調書ニ掲ケサリシトキニ限ル

第三　賣却條件但第六百七十七條ノ例規ト異ナリテ定メラレタルモノニ限ル

第四　競賣物ノ員數、各箇ノ物ニ付テノ買主

兵ニ最高競買價額ノ明示及ヒ代金ノ支拂
ニ関スル附記
競買人中最高價競買人ノミ調書ニ署名捺印
ヲ為ス可シ若シ最高價競買人カ期日ノ終結
前ニ退席シタルトキハ其旨ヲ調書ニ明示ス可
シ

第六百八十二條　第六百七十七條第一號ノ規
定ニ基キ最高價競買人ニ物ヲ競落スルヿヲ
許サヽリシトキ又ハ物ニ付キ競買ヲ為ス者ナ
キトキ又ハ金銀物若クハ高價物ニ付キ評定價
額ニ當ル價ヲ述フル者ナキトキハ執達吏ハ其旨
ヲ調書ニ記載シ且其物ヲ貯藏シタルヿ及ヒ
其貯藏ノ方法ヲモ明示ス可シ此場合ニ於テ

ハ執達吏ハ裁判所ニ報告ヲ為シテ其後ノ指
圖ヲ待ツ可シ
裁判所ハ債権者カ評定價額ニテ其物ヲ引受
ケント欲スルトキハ其物ヲ之ニ引渡スヿ又ハ
新ニ競賣期日ヲ定メ其物ノ價額ニ相應スル
ト否トニ拘ハラス最高價競買人ニ其物ヲ競
落スヿヲ命スルヿヲ得

第六百八十三條　執達吏ハ取立テタル金錢（任
意ニ支拂ヒタルモノ、差押ニ因リ取立テタル
モノ及ヒ競賣ニ因リ得タルモノ）ニ付キ其取
立テタルヿ及ヒ其取立ノ方法ヲ調書ニ記載
シタル後調書ノ附録ニ於テ債権者ニ属ス可
キ金額、強制執行ノ費用及ヒ残額アレハ其残

額ヲ證明スヘキ計算ヲ掲クヘシ其計算ニ
ル金額ハ領収ノ権利アル者ニ遅滞ナク之ヲ
拂渡スモノトス

債権者現在セサルトキ
證券ヲ以テ之ニ拂渡スヘシ但其金額ヨリ費用カ執達吏自身ニテ
一ニ差引クヘキ送付費
其金額ヲ送致スル手数料ヨリ寡キトキニ限ル」
若シ残額ヲ交付セラル可キ債務者又ハ報酬
ヲ請求スル保管人若クハ看守人カ現在セサ
ルトキハ執達吏ハ其者ニ属スヘキ金額ヲ拂渡
サシムル為メ郡長、區長若クハ戸長ニ渡スヘシ

執達吏ハ其為レタル拂渡ニ付キ受取證書ヲ

取置クヘシ受取證書、為替證券及ヒ郵便為替
第六百八十四條　若シ執達吏カ委任セラレタ
差押ヲ實施スル前他ノ債権者ヨリ同一
債務者ニ對スル差押ヲ委任セラレタルトキ
ハ總テノ委任ヲ同時ニ付與セラレタルモノ
トシテ取扱ヒ且數名ノ債権者ノ為メ差押ヲ
同時ニ實施スヘシ委任ヲ付與セラレタル順
序ノ如何ヲ問ハス其委任ノ付與ノミニテハ
債権者ノ為メニ優先権ヲ生セシメス
數名ノ債権者ノ為メ同時ニ為シタル差押ニ
付テハ只一箇ノ調書ヲ作ルヘシ此調書ニハ
通常ノ要件ノ外數名ノ債権者ノ為メ差押ヲ

同時ニ為シタルヿ掲クルヿヲ要ス
競賣ハ總テノ關係ハ權者ノ為メ同時ニ之ヲ
為ス
取立テタル金額ヨリ強制執行ノ費用ヲ差引
キタル後其殘額カ諸債權者ノ債權全額滿タ
サルトキハ各債權額ノ割合ニ應シテ債權者ニ
辨償ス可シ前條第一項ノ規定ニ從ヒ作ル可
キ計算書ニハ各債權者ニ屬ス可キ金額ヲ明
記スルヿヲ要ス
執達吏ハ關係債權者ノ一名ヨリ七日ノ期間
内ニ異議ノ申立アラサルトキニ限リ其計算書
ニ依リ拂渡ヲ為ス可シ若シ其期間内ニ異議
カ申立テラレタルトキハ執達吏ハ強制執行ノ

一ノ六

費用ノミヲ支拂ヒ殘額ヲ其現状ニ關スル届
書ト共ニ執行裁判所ノ書記ニ渡ス可シ其裁
判所ハ分配手續ヲ為スモノトス
第六百八十五條　若シ執達吏カ差押ニ着手ス
ルニ際シ債務者ノ方ニ於テ既ニ差押カ實施
セラレタルヿヲ知ルトキハ先ツ前差押ノ及ハ
サル物ニ着目ス可シ此場合ニ於テ差押ニ係
ラサル物全ク存在セス又ハ充分ニ存在セサル
トキハ其委任者ノ名ヲ以テ前差押ニ加ハルヿ
ノ陳述ヲ差押調書ニ掲クルヿヲ要ス此陳述
ハ差押ノ効力ヲ有スルモノニシテ其陳述ノ
時日ハ調書ニ詳細ニ之ヲ表示ス可シ
前ノ差押カ他ノ執達吏ニ由リ為サレタルトキ

一ノ七

ハ署名捺印ヲ以テ認證セラレタル調書ノ謄本ヽ執行力アル正本及ヒ其他債權者ノ委任ヲ掲クル書類ヲ其後ノ手續ヲ為サシムル為メ遲クモ三日内ニ其執達吏ニ交付シ其旨ヲ債權者ニ通知ス可シ此場合ニ於テハ法律ニ依リ第二以後ノ債權者ノ委任モ第一ノ差押ヲ為シタル執達吏ニ移ルモノトス

第一ノ差押ヲ為シタル執達吏ニ由レル競賣ヽ總テノ關係債權者ノ為メ同時ニ之ヲ為ス取立テタル金錢ヨリ強制執行ノ費用ヲ差引キタル後其殘額カ諸債權者ノ債權全額ニ滿タサルトキハ差押ノ順序ニ從ヒ各債權者ニ辨償ス可シ計算書ノ作成及ヒ計算シタル金額ノ拂渡又ハ裁判上ノ寄託ニ付テハ前條第四項及ヒ第五項ノ規定ヲ適用ス

第六百八十六條　債權者ハ差押ヘタル有價證券ヲ現金ノ支拂ニ代ヘテ引渡サレンコトヲ執行裁判所ニ求ムルコトヲ得其引渡ヲ為スニハ受取證書ヲ取リ且債務者ニ交付ス可キ殘額アラハ其殘額ヲ支拂ヒ右有價證券ヲ裁判所ヨリ債權者ニ交付ス可シ

債權者カ現金支拂ニ代ヘテ證券引渡ヲ申立ツルトキハ債權者債務者ノ雙方ヲ期日ニ呼出シ引渡ヲ為スノ憑拠タル可キ代價ニ付キ之ヲ審訊ス可シ若シ引受價額ニ付キ一致スルコト能ハサルトキハ債權者ノ求ニ因リ證券ノ相

場ヲ以テ又相場ナキ片ハ其額面價額ヲ以テ
引渡ノ憑據ト為ス可シ

第六百八十七條 債權者カ現金支拂ニ代ヘテ證券ヲ引受ケント欲セサル片ハ裁判所ハ銀行ヲシテ其賣却ヲ為サシメ又ハ執達吏ニ其競賣ヲ委任ス可シ

第六百八十八條 有價證券カ所持人式ニ非スシテ債務者ノ記名式ニ係ル場合ニ於テハ裁判所ハ現金支拂ニ代ヘテ證券ヲ引受ケタル債權者ノ申立又ハ其證券ヲ銀行ヨリ得取ル若クハ競賣ニ因テ得取シタル第三者ノ申立ニ因リ得取ニ付テハ證明書ヲ之ニ付與ス可シ又其債權者若クハ第三者ハ此證明書ニ基

キ管轄官廳又ハ證券ヲ發行シタル銀行若クハ商事會社ニ記名ノ書換ヲ求ムルヿヲ得

第六百八十九條 有價證券ノ差押カ數名ノ債權者ノ為メニ為サレタル場合ニ於テハ證券ノ價額カ諸債權者ノ債權全額ニ滿タサル片ニ限リ分配手續ヲ為スモノトス

第六百九十條 金錢支拂ニ代ヘテ有價證券ヲ引受クルノ權利ニ付テハ前ニ質權ヲ得タル債權者ハ後ニ質權ヲ得タル者ニ先タツモノトス

第二款 債權及ヒ他ノ財産權ニ對スル強制執行

第六百九十一條 第三者(第三債務者)ニ對スル

債務者ノ債権ニシテ金額ノ支拂又ハ他ノ有體動産若クハ有價證券ノ引渡若クハ給付ヲ以テ目的トスルモノヽ強制執行ハ裁判上ノ差押命令ヲ以テ之ヲ為ス

第六百九十二條　差押命令ヲ發スル為メ及ヒ此種類ノ強制執行ノ為メ裁判所ニ住所ヲ有セサル債務者ノ住所ニ関シレタル行為ニ付テハ債務者ノ住所ニ関シレタル地ノ區裁判所ハ執行裁判所トシテ之ヲ管轄ス又此ノ如キ裁判所ナキ時ハ第二十條ノ規定ニ從ヒ債務者ニ對スル許ラ管轄スル區裁判所之ヲ管轄ス

第六百九十三條　差押ハ第三債務者ニ對スル債務者ノ中ニ付キ債権者ニ元金、利息及ヒ費用ヲ辨償シ且強制執行ノ費用ヲ償フ為メ必要ナル金額ノミニ及フモノトス

第六百九十四條　差押命令ヲ發スルノ申請ニハ債権者ハ差押フ可キ債権ノ種類、數額及ヒ支拂期限ヲ明白ニ表示ス可シ

其申請ハ口頭ヲ以テ之ヲ提出スルヿヲ得

第六百九十五條　差押命令ハ豫メ第三債務者及ヒ債務者ノ審訊ヲ經スシテ之ヲ發ス

差押命令ニハ左ノ諸件ヲ包含スルヿヲ要ス

第一　執行カ正本ノ表示

第二　債権者ニ屬スル債権及ヒ強制執行ノ見積費用額ノ明示

第三　差押フ可キ債権ノ表示

第四　債権者ノ債権額及ヒ費用額ニ相當スル金額ヲ債務者ニ支拂ハスシテ債権者ニ支拂フ可キヿ及ヒ引渡シ若クハ給付ス可キ物ヲ債務者ニ渡サスシテ債権者ヨリ領收ヲ委任セラレタル執達吏ニ渡ス可キ旨ノ第三債務者ニ對スル催告

第五　債権ヲ行用シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ債権ヲ處分スルヿヲ得サル旨ノ債務者ニ對スル禁止

第六一　第三債務者ニ對シ右ノ債権ヲ行用スルノ権利ヲ以テ債権者ニ右ノ債権ヲ轉付スルヿ

差押命令書ハ債務者及ヒ第三債務者ニ之ヲ

送達ス可シ差押ハ第三者ニ對スル送達ヲ以テ為サレタルモノト看做ス

第六百九十六條　債権者債務者ノ債権ヲ差押ヘタルトキハ第六百五十一條ニ有體物ノ差押ニ関シ定メタルト同一ノ効力ヲ以テ其債権ニ付キ質権ヲ得取ス

元金債権ニ付テノ質権ハ利息ニモ及ホシ継續シテ取立ツ可キ債権額又ハ割拂ヲ以テ支拂ハル可キ債権額ニ付テノ質権ハ差押ノ後満期ト為ル可キ金額ニモ及ホシ又私ノ勤務ニ於テ雇ハレタル者ノ給料ニ付テノ質権ハ債務者カ雇主ノ同一ニシテ増給轉職又ハ兼任ニ因リ得ヘキ收入ニ及ホス可シ

第六百九十七條　抵當債權ノ差押ノ場合ニ於
テハ債權者ハ債務者ノ承諾ヲ要セスシテ其
債權ニ関スル質權ヲ記入[redacted]簿ニ記入セシム
ルノ權利アリ
記入ノ申立ハ裁判所ニ之ヲ為可シ其申立ハ
差押命令ヲ發スルノ申立ト之ヲ併合スルヿ
ヲ得
裁判所ハ差押命令書ヲ負擔アル不動産ノ所
有者（第三債務者）ニ送達シタル後記入ヲ為サ
シムル為メ記入[redacted]簿ヲ掌ル役所ニ必要ナル
指圖ヲ為シ且之ヲ執達吏ニ交付シ執達吏ハ
囑託書ト共ニ之ヲ右ノ役所ニ提示シテ記入
ヲ為サシム可シ

十六

若シ負擔アル不動産ガ他ノ區裁判所ノ管轄
地内ニ在ルトキハ執行裁判所ハ記入ヲ其區裁
判所ニ囑託ス可シ

第六百九十八條　債務者ノ債權ヲ債權者ニ轉
付シタルヿヲ差押命令書中ニ掲ケタルトキハ
債務者カ債權者ニ債權ヲ轉付スル為メ任意
ニ公證書ニ於テ為シタル陳述ニ均シキモノ
トス

第六百九十九條　債務者ハ債權ニ関スル所持
ノ證書ヲ債權者ニ引渡スノ義務アリ債權者
ハ差押命令ニ基キ強制執行ノ方法ヲ以テ其
證書ヲ債務者ヨリ取上ケシムルヿヲ得
債權者ヨリ委任セラレタル執達吏ハ動産引

十七

被ニ関スル強制執行手續ノ成規ニ従ヒ其證
書ヲ取上ク可シ
若シ其證書カ既ニ執達吏ニ因リ債務者ノ方
ニ於テ假ニ差押ヘラレタルトキハ第六百四十
九條第二項ニ執達吏ハ差押命令ニ基ト領收證
書ヲ取リテ之ヲ債權者ニ交付ス
債權者ハ辨償ヲ得タル後證書ヲ債務者ニ返
ス可シ但第三債務者ヨリ其證書ヲ第三債務者ニ交
付セサルヲ得サルトキハ此限ニ在ラス
第七百條 為替證券及ヒ此ニ類スル證券ニ因
レル債權ニ付テハ差押命令ハ執達吏カ債務
者ノ方ニ於テ證券ヲ假ニ差押ヘタル後ニ非
サレハ之ヲ發スルコトヲ得ス
債權者カ差押命令ノ發セラレタルトキハ第六
百九十八條ノ規定ヲ適用ス
第七百一條 質權又ハ優先權ニ基キ債權ノ目
的物ニ付キ優先ノ辨償ヲ訴ヲ以テ請求スル
第三者ノ權利ニ關シテハ第六百五十二條ノ
規定ヲ準用ス
第三者ニ所有權又ハ質權ノ屬スル債權ニ差
押ヘラレタルトキハ債務者ハ遲滯ナク第三者
ニ其差押ヲ知ラシムルノ義務アリ若シ債務
者カ之ヲ知ラシムルヲ怠リタルトキハ第三
者ニ對シ此カ為メニ生シタル損害ノ責ニ任ス
第七百二條 差押ニ依テ従ヒ第三債務者ヨリ債權

者又ハ執達吏ニ為シタル給付ハ第三債務者ヲシテ債務者ニ對スル已レノ義務ヲ免カレシム

差押ニ戻リテ第三債務者ヨリ為シタル給付ハ差押ヲ為サシメタル債権者ニ對シ法律上ノ効力ナシ此場合ニ於テハ第三債務者ハ給付カ不代補物ノ引渡ヨリ成ル片ハ此カ為メ債権者ニ生ス可キ損害ヲ賠償スルノ義務アリ

第七百三條　第三債務者カ支拂フ可キ金額ヲ債権者ニ拂フ片ハ其債権者ハ債務者カ支拂金額ヲ受取ルニ際シ為ス可キト同一ノ方法ヲ以テ第三債務者ニ受取證書ヲ付與スルノ

権利及ヒ義務アリ

第三債者カ引渡ス可キ物又ハ給付ス可キ物ヲ執達吏ニ渡シタル片ハ執達吏ハ差押物ノ競賣ニ関スル成規ニ從ヒ其物ニ付キ處分ヲ為ス可シ

第三債務者カ引渡シ又ハ給付ス可キ有價證券ヲ執達吏ニ渡シタル片ハ執達吏ハ其現状ノ届書ト共ニ之ヲ裁判所ニ差出シ其裁判所ハ差押ヘタル有價證券ノ引渡及ヒ賣却ニ関スル成規ニ從ヒ其有價證券ニ付キ處分ヲ為ス可シ

第七百四條　債権者カ差押命令中ニ包含セル轉付ニ基キ第三債務者ニ對シ訴ヲ起スニ至

リタルトキハ普通ノ例規ニ從ヒ管轄ヲ有スル裁判所ニ其訴ヲ起シ且債務者ノ住所知レタルトキ又ハ其内國ニ在ルトキハ裁判上其爭訟ヲ之ニ告知ス可シ若シ債權者其爭訟ノ告知ヲ急リタルトキハ爭訟ヲ開始スルヿヲ得ス

第七百五條　債權者カ債權ヲ行用スルヿヲ急リ若クハ訴ヲ以テ其債權額ヲ取立ツルヿヲ急リタルトキ又ハ其責務ニ背キ交付セラレタル證書ノ返還ヲ遲滯シタルトキハ此カ為メ債務者ニ生シタル損害ノ責ニ任ス

第七百六條　債權者ハ差押ニ因テ得取シタル權利ヲ拋棄スルヿヲ得然レ𪜈此カ為メ其請求權ヲ害セラルヿ無シ但差押ノ費用ハ其債

權者ノ負擔ニ歸ス

其拋棄ハ裁判所ニ届書ヲ差出スヲ以テ之ヲ為ス但其副本ハ第三債務者及ヒ債務者ニ之ヲ送達ス可シ

第七百七條　下ニ記スル債權ハ之ヲ差押フルヿヲ得ス

第一　民法ニ依レル養料

第二　債務者カ義捐建設所ヨリ又ハ第三者ノ慈惠ニ因リ受クル継續ノ收入但其收入ハ債務者自身及ヒ其家族ノ生計ノ為メ必要トルモノニ限ル

第三　疾病、罹災又ハ死亡ノ為メノ貯金預[redacted]所ヨリ受取ル可キ金額

第四　士官及ヒ文武官員ノ給料但吏員ノ如キ確定ナル地位ヲ有ヒサル者又ハ一時ノ需要ノ為メ公務ニ從事スル者ヲモ包含ス

第五　右ノ者ノ恩給金及ヒ年金

第六　手工補助人、職工又ハ雇人カ其勞力又ハ役務ノ為メ受ケタル報酬但報酬權利者カ其勞力又ハ役務ヲ以テ全ク其生計ヲ立テ又ハ主トシテ其生計ヲ立ツルトキニ限ル

第七　官廳ニ寄託シタル身元金又ハ保證金

第八　特別ノ法律ヲ以テ差押ヲ禁シタル債權

第百八條　一个年以上私ノ勤務ニ於テ雇ハレタル者ノ給料ハ執行裁判所ニ於テ扣除ス

ルヲ得ヘレト定メタル額ニ限リ之ヲ差押フルヿヲ得

第七百九條　債權ヲ既ニ差押ヘタリト雖モ他ノ債權者ノ為メ其債權ヲ差押フルノ妨ケト為ラス

第二以後ノ差押及ヒ其後ノ手續共ニ數名ノ債權者ノ為メ同時ニ為サル可キ差押ニ付テハ前數條ノ規定ヲ準用ス但下ノ數條ニ於テ異ナリタル規定ヲ掲ケタルトキハ此限ニ在ラス

第七百十條　金錢ノ債權カ數名ノ債權者ノ為メ差押ヘラレタルトキハ第三債務者ハ其責務ヲ履行ス可キ地ヲ管轄スル區裁判所ノ書記

ニ債務額ヲ預ケルノ権利アリ
若シ第三債務者カ此権利ヲ行用セサルトキハ
其債務額カ諸債権者ノ債権全額満タサル場
合ニ於テ差押ヲ同時ニ為シタルト又ハ之ヲ
順次ニ為シタルトニ従ヒ各債権額ノ割合ニ
應シ又ハ差押ノ順序ニ従ヒ債権者ニ辨償ス
可シ

第三債務者ハ其関係債権者ノ一人ノミノ求
ニ因リテモ亦債務額ノ裁判上ノ寄託ヲ為ス
ノ義務アリ

第三債務者ハ債務額ノ裁判上ノ寄託ヲ為ス
ニ際シ其現状ヲ裁判所ニ届出テ且其送達セ
ラレタル差押命令書ヲ差出ス可シ但其届出

ハ口頭ヲ以テ之ヲ為スヿヲ得

第七百十一條　有體物又ハ有價證券ノ引渡又
ハ給付ニ関スル債権カ數名ノ債権者ノ為メ
差押ヘラレタルトキハ第三債務者ハ関係債権
者中ノ一人ノ名ヲ以テ最初ニ差押ヲ為シタ
ル執達吏ニ其物又ハ有價證券ヲ引渡シ且其
現状ヲ執達吏ニ届出テ其送達セラレタル差
押命令書ヲ之ニ渡ス可シ

執達吏ハ數名ノ債権者ノ為メ差押ヘラレタ
ル物ノ競賣ニ関スル成規ニ従ヒ其引渡サレ
タル物ニ付キ總テノ関係債権者ノ為メ處分
ヲ為シ且引渡サレタル有價證券ヲ現状ニ関
スル届書ト共ニ裁判所ニ差出ス可シ

第七百十二條　第三債務者カ前二條ノ場合ニ於テ其負フタル責務ヲ履行セサルトキハ関係債権者ハ差押命令書中ニ掲ケタル轉附ニ基キ訴ヲ以テ之ヲ履行セシムルヿヲ得其他ノ各関係債権者ハ共同争訟人トシテ原告ニ加ハヽルノ権利アリ

訴ヘラレタル第三債務者ハ訴ヲ起サス且共同争訟人トシテ原告ニ加ハヽラサル債権者ヲ遅クモ口頭辯論ノ第一期日ニ原告ニ指名スルヿヲ要ス裁判所ハ右債権者ヲ共同争訟人トシテ訴訟手續ニ立會ハシム

此カ為メ發セラレタル裁判ハ總債権者ノ為メ及ヒ總債権者ニ對シ効力アリ然レ𪜈第三

債務者カ関係債権者ヲ指名スルノ義務ヲ怠リタルトキハ他ノ関係債権者ニ對シテ得タル利益アレ裁判ヲ以テ右ノ債権者ニ對抗スルヿヲ得ス

第七百十三條　第六百九十一條ニ掲ケタル以外ノ財産権ノ差押ニ付テハ其財産権カ不動産ニ對スル強制執行ノ目的物タラサルトキニ限リ此款ノ規定ヲ準用ス

若シ第三債務者ノ有ラサルトキハ差押ハ債務者ニ處分権行用ノ禁止書ヲ送達シタル時日ヲ以テ為サレタルモノト看做サル

裁判所ハ差押ヘラレタル権利ヲ換價スル為メ其場合ノ情況ニ從ヒ必要ナル特別ノ命ヲ

債権者ノ申立ニ因リ發ス可シ
裁判所ハ右ノ目的ノ為メ殊ニ收益権ニ付テ
ハ其権利ノ管理ヲ命シ又ハ其権利ノ移付ヲ
許サル可キトキハ其移付ヲモ命シ且移付ヲ執
達吏ニ委任スルヿヲ得

第三款　分配手續

第七百十四條　分配手續ハ動産ニ對スル強制
執行ニ際シ裁判所ニ預ケラレタル金額又ハ
有價證券ノ賣却ニ因リ得タル金額ヲ関係債
権者ニ辯償スルニ足ラサルトキ之ヲ為ス

第七百十五條　裁判所ハ金額又ハ有價證券ノ
寄託ニ際シテ差出シタル現状届書ニ基キ十
四日ノ期間内ニ元金、利息、費用及ヒ其他ノ附

従債権ノ計算書ヲ差出ス可キヿヲ各関係債
権者ニ催告ス可シ
債権ノ為メ主張シタル優先権ノ届書ハ計算
書ニ之ヲ添フルヿヲ得

第七百十六條　十四日ノ期間満了ノ後裁判所
ハ分配案ヲ作成ス
手續ノ費額ハ先ツ現在金ヨリ之ヲ扣除ス可
シ又債権者ノ諸債権ハ其額ヲ各別ニ記載ス
可シ
其末尾ニハ各箇ノ債権ニ配當ス可キ金額ヲ
明示ス可シ
十四日ノ期間ヲ遵守セサル債権者ノ債権ハ
分配案ノ作成ニ際シ届書ノ包有事項及ヒ其

憑據書類ニ依リ之ヲ計算ス但●後ニ至リ債
權額ヲ補充スルヿハ之ヲ許サス

第七百十七條　分
實施ノ為メ裁判所ハ債權者及ヒ債務者ヲ呼出ス可シ但債務者
ノ所在不分明十
出ヲ為スヿヲ要セス
分配案ハ遲クモ期日ノ三日前ニ當事者ニ閱
覽セシムル為メ裁判所書記局ニ之ヲ備置ク
可シ

期日ニ出頭シタル各債權者ハ他ノ債權者
債權及ヒ他ノ債權者ノ主張シタル優先權ニ
對シ異議ヲ申立ツルノ權利アリ

第七百十八條　若シ期日ニ異議カ申立テラレ
サルトキハ分配案ノ順序ニ從ヒ賦圖ヨリノ支
拂ヲ以テ各箇ノ債權ヲ濟清スルヿヲ得ヘキ
限リハ之ヲ濟清スル様其業ヲ實施ス可シ

第七百十九條　異議
關係債權者ハ直ナ
當事者カ異議ヲ理
意成リタルトキハ
ヒ之ヲ實施ス可シ
ルトキハ異議ヲ受ケ
實施ヲ為スモノトス

第七百二十條　期日ニ出頭セサル債權者ハ分
配案ノ實施ニ同意シタルモノト看做サル

若シ期日ニ出頭セサル債権者カ他ノ債権者ヨリ起シタル異議ニ関係ヲ有セサル片ハ右ノ債権者ハ異議ヲ理由アリト認メサルモノト看做サル

第七百二十一條　異議カ期日ニ於テ完結セラレサル片ハ異議アル債権者ヲシテ債権又ハ債権ノ為メ主張セラレタル優先権ノ正當ナルヿノ認諾ニ付キ関係債権者ニ對シテ訴ヲ起シタルヿヲ適當ニ定ム可キ期間内ニ裁判所ニ證明セシムルヿヲ命ス可シ但其證明書ハ分配手續ニ関スル記録ニ添フルモノトス若シ異議アル債権者カ其期間ヲ徒過シタル後ハ裁判所ハ異議ニ拘ハラスシテ分配案ノ

實施ヲ命ス

第七百二十二條　異議アル債権者ノ訴ニ付テハ分配手續ヲ開始シタル區裁判所之ヲ管轄ス然レ𪜈爭訟物カ區裁判所ノ管轄ニ属セサル片ハ其區裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ管轄ス若シ數箇ノ訴カ起サレタル片ハ之ヲ併合シ且各箇ノ爭訟物ヲ合算ス

第七百二十三條　訴カ起サレタル片ハ通常訴訟ノ成規ニ從ヒ爭訟ノ辯論及ヒ裁判ヲ為ス可シ其判決ニハ亦財團ノ係爭部分ヲ如何ナル債権者ニ如何ナル數額ヲ以テ支拂フ可キヤヲ定ム可シ

若シ其事ヲ適當トセサルトキハ判決ニ於テ新ナル分配案ノ作成及ヒ他ノ分配手續ヲ命ス可シ

第七百二十四條　若シ異議アル債權者カ頭辯論ノ第一期日ニ出頭セサルトキハ異議ヲ取下ケタルモノト看做ス可キ闕席判決ヲ發ス可シ

民事訴訟法草案

第二十六回

第七百二十五條　其發セラレタル判決カ執行ス可キモノト爲ルキハ其判決ニ基キ裁判所ハ直チニ支拂又ハ其他ノ分配手續ヲ命ス

第七百二十六條　分配ノ實施ノ際現在セサリシ債權者ニ對シテハ下ノ二項ノ規定ヲ留保シ之ニ分配ス可キ金額ヲ其危險及ヒ費用ニテ送致ス

債權者カ民法ニ從ヒ支拂金額ノ領收ニ對シ債務者ニ交付スル義務アル證書ヲ以テ債權憑據ト爲スノ證書ヲ提出スルニ非サレハ支拂ヲ受クルヿヲ得ス裁判所ハ債權ヲ支拂ヒタルヤ否又如何ナル金額マテ之ヲ支拂ヒタルヤヲ其提出セラレタル各箇ノ證書

ニ證記ス可シ又完済シタル債権額ニ関スル證書ハ其全文ヲ抹殺シ且其紙面ヲ剪断シタル後債務者ニ之ヲ交付シ總テ其他ノ證書ハ之ヲ債権者ニ還付ス可シ

若シ債権者カ前記ノ證書ヲ提出セサル片ハ其證書ヲ無効ト宣言スルマテ債権額ニ相當スル金額ヲ債権者ノ危險及費用ニテ裁判上ノ貯藏ニ付ス可シ

之ヲ追完シ又ハ其

第七百二十七條　分配案ニ對シ異議ヲ申立テタル債権者ハ定マリタル期間内ニ裁判所ニ訴ヲ起シタルヿヲ證スルヿヲ怠リタル片ト雖モ分配案ニ從ヒ金額ヲ分配セラレタル債権者ニ對シ訴ヲ以テ普通ノ例規ニ依リ管轄

ヲ有スル裁判所ニ其優先権ヲ主張スルヿヲ分配案實施ノ爲メニ妨ケラレス

第七百二十八條　強制執行ヲ以テ命シタル管理〔第七百十三條〕ニ際シ収入カ数名ノ關係債権者ニ辨償スルニ足ラサル片ハ管理者ヨリ裁判所ニ其現状届書ヲ差出シタル後此款ノ規定ニ從ヒ分配ヲ爲ス可シ

第二節　不動産ニ對スル強制執行

第一款　強制競賣

第七百二十九條　不動産其物ニ對スル強制執行ハ強制競賣ヲ以テ之ヲ爲ス

第七百三十條　強制競賣ニ際シ裁判所ニ仕カセラレタル行爲ニ付テハ不動産ノ所在地ヲ

二

三

管轄スル區裁判所ハ執行裁判所トシテ之ヲ管轄ス

若シ數箇ノ區裁判所管轄區ノ疆界ニ付キ孰レノ區裁判所カ管轄ヲ有スルヤ不明ナル片又ハ不動産カ數箇ノ區裁判所管轄區ノ疆界ニ跨ルキハ申立ニ因リ第二十六條ノ規定ニ從ヒ此裁判所ノ一ヲ以テ執行裁判所ト定ムヘシ

第七百三十一條　不動産ノ一債務者ノ數箇ノ不動産カ數箇ノ區裁判所管轄區内ニ在ル場合ニ於テ其強制競賣ヲ爲スヘキ旨ノ命ヲ發スルコトヲ得

其所在地ニ就キ差押ヘシム

第七百三十二條　執達吏ハ債務者カ不動産ノ所有者トシテ地所帳ニ記入セラレサル又ハ其不動産ニ付テノ所有權カ債權者ニ因リ信スルニ足ルヘキ證明書ヲ以テ證セラレサルキニ限リ差押ヲ爲スコトヲ得

第七百三十三條　債權者ハ未タ不動産ヲ占有セサルキニ於テハ差押ニ因リ其不動産ニ付キ質權ヲ得取スル其效力ハ有體動産ノ差押ニ關シ第六百五十一條ニ定メタルモノト同一ナリ

第七百三十四條　差押ハ不動産ニ付キ他ノ債權者ノ爲メ抵當權カ記入セラレタルコト又ハ不動産カ賃借ニ付セラレタルコトニ因リテ

妨ケラレス
若シ債貸借ノ場合ニ於テ債権者カ借料ヲモ
強制執行ノ目的物ト爲サント欲スルキハ其
債権者ハ借料ノ裁判上差押又ハ不動産ノ強
制管理ヲ爲サシムルヿヲ得

第七百三十五條　執達吏ハ差押ヲ爲シタルキ
直チニ不動産所在地ノ地所帳役所ニ執行力
アル正本ヲ提出シ其不動産ヲ債権者ノ爲メ強制執行ヲ以テ差押ヘタルヿヲ記入
簿ニ記入セント嘱託スヘシ
右役所ハ遅滞ナク其嘱託ニ應シ且署名捺印
ヲ以テ認證シタル差押記入ノ謄本ヲ執達吏
ニ交付スヘシ

第七百三十六條　債権者カ不動産ノ強制管理
ヲ爲サシメサル間ハ債務者尚ホ其不動産ノ
使用及ヒ管理ヲ爲スヿヲ得

第七百三十七條　差押ニ付キ作ル可キ調書ニ
ハ殊ニ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

第一　不動産ノ記載及ヒ如何ナル位置并ニ其重ナル成立部分
ノ在スルヿ又ハ其不動産ニ存
セサルヿノ明示

第二　不動産ノ總坪数、地租賦課ノ爲メ評定
セラレタル其價額及ヒ其不動産ニ付キ納
ム可キ一个年ノ租額

第三　債務者カ不動産所有者トシテ地所帳

ニ記入セラレタルヿノ明示又其記入ナキ
ヰハ不動産ニ付テノ債務者ノ所有権カ債
権者ニ由リ證セラレタル證明書ノ表示

第四　不動産ニ付キ記入簿ニ記入セラレタ
ル抵當債権ノ額、利息ノ割合、元金并ニ利息
ノ支拂期日、記入ノ日附及債権者ノ氏名、身
分、職業、住所ノ記載又ハ抵當権カ記入セラ
レサルヿノ明記

第五　不動産ノ賃貸借ノ場合ニ於テハ賃借
人ノ氏名、身分、職業、住所ノ表示及ヒ賃借時
期、借料ノ額又ハ其他契約ノ重要ナル約定
ニ付キ知リタル情況

第六　債務者ニ差押ヲ通知シタルヿ又ハ後

日ニ至リ如何ニ之ヲ通知ス可キヤノ明示」
執達吏ハ第一號乃至第四號ニ定メタル要件
ヲ知ル爲メ地所帳又ハ記入簿ノ提出ヲ地所
帳役所ニ求ムルノ権利アリ

第七百三十八條　執達吏ハ差押債権者ニ對シ
又執行裁判所ノ管轄區内ニ於テ爲スヿヲ得
ヘキヰハ各抵當債権者ニ對シ第六百四十一條
第一項及ヒ第二項ノ規定ニ從ヒ差押ヲ通知
ス可シ

第七百三十九條　執達吏ハ差押後遅クヒ三日
内ニ其差押ニ付キ裁判所ニ報告ヲ爲ス可シ」
裁判所ニ差出ス可キ認證セラレタル調書ノ
謄本ニハ差押記入ノ謄本ヲ添ヘ又債権者カ

不動産ニ付キ地租帳ニ記入セサル債務者ノ所有権ヲ其差出シタル証明書ヲ以テ証シタルキハ其証明書ノ原本ヲ添フ可シ

第七百四十條　裁判所ハ差押手續ノ適否ヲ調査シ若シ違背アルコトノ顕ハルヽキハ之ヲ更正スルニ必要ナル命ヲ發ス可シ

第七百四十一條　裁判所ハ其裁判管轄區外ニ住スル抵當債権者ニ對シ差押ノ通知書ヲ送達ス可シ

サル抵當債権者ハ其所在地ニ住スル第三者ノ方ニ於テ住所ヲ選定シ其旨ヲ裁判所ニ届出ツルノ義務アリ若シ抵當債権者カ之ヲ怠リタルキハ第百六十五條第二項ノ規定ヲ準用ス

第七百四十二條　抵當債権者ノ住所ノ不分明ナルキ又ハ其死亡ノ場合ニ於テ相續人ノ知レス若クハ其住所ノ不分明ナルキ又ハ抵當債権者若クハ其相續人カ明示セラレタル住所ニ住セサルトキハ差押通知書ノ送達及ヒ其他抵當債権者若クハ其相續人ニ對シテ爲スヘキ要ス可キ送達ハ裁判所掲示板ニ於ケル掲示ヲ以テ之ヲ爲ス

送達ハ掲示ヲ以テ爲サレタルモノト看做サル但其掲示ヲ爲シタルコトハ記錄ニ之ヲ證記ス可シ

第七百四十三條　差押債権者各抵當債権者及

ヒ債務者ハ執達吏ヨリ差押ノ通知ヲ受ケタル日又ハ差押ニ付テノ裁判上ノ通知書ヲ送達セラレタル日ヨリ起算シテ十四日ノ期間内ニ適法ナル最低ノ競買價額ニ關シ及ヒ賣却ノ特別條件ニ關シ裁判所ニ申立ヲ爲スノ權利アリ

右ノ申立カ爲サレタルキハ裁判所ハ其申立人及ヒ其他ノ當事者ヲ說明ノ爲メ呼出スコトヲ得

裁判所ハ職權ヲ以テ總關係人ヲ呼出シテ說明ヲ爲サシムルコトヲ得

適法ナル最低ノ競買價額ニ關シテハ不動產ニ付キ其地ト■時ト■於ケル相當ノ普通賣

却價額ヲ探知スル爲メ說明ヲ爲サシム可シ

但適當トスル場合ニ於テハ擔保ヲ爲シ又ハ鑑定人ヲ審訊スルコトヲ得

第七百四十四條　適法ナル最低ノ競賣價額ハ當事者間ニ別段ノ合意アラサルキハ課稅ノ爲メ其不動產ヲ評定シタル價額ト定ム可シ」

若シ其評定價額カ確定セラレサルキハ裁判所ハ當事者ヲ審訊シ又適當トスル場合ニ於テハ擔保ヲ爲シ又ハ鑑定人ヲ審訊シタル上適法ナル最低ノ競買價ヲ定ム可シ

第七百四十五條　法律上ノ賣却條件ハ當事者間ニ別段ノ合意アラサルキハ左ノ如シ

第一　裁判所又ハ差押債權者ハ明示セラレ

ノメル坪数及ヒ其他不動産ノ表示ノ爲メ差押調書ニ掲ケタル事項ニ付キ責ニ任セス

第二　不動産ノ物上義務ニシテ第三者ニ對シ有効ナラシムル爲メ記入簿ニ記入スルコトヲ要セサルモノハ賣却ニ因リテ變更ヲ受ケス

第三　裁判上ノ競落決定ノ言渡アリタル時ハ競落人ハ代金支拂ニ付テノ責務ヲ履行スル條件ヲ以テ其所有權ヲ得取シ且危險及ヒ收益モ同時ニ其競落人ニ移ル

第四　競落人ハ自己ノ危險及ヒ費用ニテ不動産ノ再度ノ競賣ヲ爲サルヽコトヲ避クル爲メ裁判所ノ指定ス可キ期日ニ代金ヲ現拂シ且競落決定ノ言渡ノ日ヨリ支拂ノ日マテノ法律上ノ利息ヲ之ニ付ス可シ

第五　競落人ハ代金ノ外ニ所有權轉付ノ證印費用、地所帳ニ於ケル其所有權記入ノ費用及ヒ記入簿ノ必要ナル更正ノ費用ヲ負擔ス可シ

第七百四十六條　其他適法ナル最低ノ競買價額ヲ定ムルコトヲ又ハ法律上ノ賣却條件ノ外ニ特別條件ヲ設クルコトハ總當事者ノ承諾ヲ以テノミ之ヲ許スト雖モ法律上ノ賣却條件ト牴觸スル賣却條件ハ之ヲ設クルコトヲ許サス又ヒ特適法ナル最低ノ競買價額ヲ定ムルコト及ヒ特

別ノ賣却條件ヲ設クルトキニ關スル裁判所ノ裁判ニ對シテ爲ス不服ノ申立ハ競落ノ許否ニ關スル決定ニ對シ許サレタル上訴ヲ以テノミ之ヲ爲スコトヲ得（第七百七十四條以下）

第七百四十七條　競賣期日ヲ定メ及ヒ競落ヲ許スコトニ關スル決定ノ言渡ノ期日ヲ定ム

第七百四十八條　競賣期日ハ少ナクモ三十日ノ後タルコトヲ要ス

其期日ハ不動産ノ存在スル市町村ニ於テ戸長又ハ區長立會ノ上執達吏之ヲ開クコトヲ得

第七百四十九條　競落ヲ許スコトニ關スル決定ノ言渡期日ハ競賣期日ヨリ七日ノ後タルコトヲ得ス

其期日ハ裁判所ノ内ニ於テ裁判所之ヲ開ク

第七百五十條　競賣期日ノ公告ニハ左ノ諸件ヲ包含スルコトヲ要ス

第一　不動産ノ位置、名稱、番號ノ表示、其總坪數、課稅ノ爲メ評定セラレタル價額并ニ納ムヘキ一个年ノ租額

第二　適法ナル最低ノ競買價額

第三　競賣期日ノ場所并ニ日時及ヒ競賣ヲ爲スヘキ執達吏ノ氏名并ニ住居

第四　競落ヲ許スヘキ期日ノ場所及ヒ日時

第五　差押調書ヲ執達吏ニ就キ閲覽シ得ヘ

十六

十七

キヿ及ヒ特別ノ賣却條件〔其條件ノ設ケラレタルトキ〕并ニ最低ノ競買價額ノ確定ニ関スル説明書〔其説明アリタルトキ〕ヲ裁判所書記ニ就キ閲覧シ得ヘキヿ

第七百五十一條　競賣期日ノ公告ハ正本ヲ左ノ箇所ニ掲示スルヲ以テ之ヲ爲ス

第一　裁判所掲示板

第二　不動産ノ存在スル市町村ニ於テハ戸長、郡長又ハ區長ノ役場ノ掲示板

第三　競賣ス可キ不動産

第四　往来ノ繁キ地又ハ公衆ノ集合スル地ニ掲示ヲ斡旋スルハ執達吏ノ任トス其執達吏ニハ此カ爲メ公告ス可キ正本ノ必要ナル数

十八

ヲ交付ス可シ

公告ハ裁判所ノ意見ニ従ヒ新聞紙ニ掲載スルヿヲ以テモ亦之ヲ爲スヿヲ得

何人ニテモ競賣ノ結果ニ付キ利害関係ヲ有スルモノハ右ノ外自己ノ費用ヲ以テ公告ヲ爲スヿヲ得

第七百五十二條　差押債権者、各抵當債権者及ヒ債務者ハ公告書ノ正本ノ送達ニ因リテ競賣期日ニ之ヲ呼出ス可シ

第七百五十三條　公告書ノ正本及ヒ特別ノ賣却條件書ノ正本ハ執達吏之ヲ受取リテ記録ニ編入ス可シ

戸長又ハ區長ニハ競賣期日ニ出頭ス可キヿ

十九

ヲ催告シテ公告書ノ正本ヲ送達ス

第七百五十四條　競賣期日ノ公告ヨリ其開始マテハ競買書ヲ執達吏ニ差出スコトヲ得

競買書ニハ左ノ諸件ヲ掲クルコトヲ要ス

第一　不動産ノ明白ナル表示

第二　少ナクトモ適法ナル最低ノ競買價額ニ達スル提供代金ノ明示

第三　特別ノ賣却條件ヲ設ケタルトキハ競買人カ其條件ニ從ヒタルコトノ陳述

執達吏ハ競買人ノ求ニ因リ其競買書ノ領收ヲ書面ヲ以テ證スヘシ

競賣期日ノ開始後ニハ競買書ハ最早之ヲ取下クルコトヲ得ス

第二項ニ掲ケタル要件ニ適セサル競買書又ハ定マリタル金額ヲ以テ代金ヲ表セスシテ他ノ期ス可キ競買價額ニ對スル比例ヲ以テノミ之ヲ表スル競買書ハ之ヲ顧ミルコトヲ得ス

第七百五十五條　競賣期日ヲ開始スルニ際シ執達吏ハ差押調書ヲ各人ノ閲覽ニ供シ且高聲朗讀ニ因リテ適法ナル最低ノ競買價額及ヒ法律上ノ賣却條件并ニ特別ノ賣却條件ヲ公告ス可シ

其後ニ至リ競買價額ノ申出ヲ催告ス可シ適法ナル最低ノ競買價額ニ達セサル競買價額又ハ朗讀シタル賣却條件ニ適セサル競買

價額ハ之ヲ顧ミルヲ得ス

第七百五十六條　爭訟カ繫屬セル各裁判所及ヒ執行裁判所ノ判事、官吏、執達吏并ニ其補助人ヲ競買ヨリ除斥スルヿニ關シテハ第六百七十六條ノ規定ヲ準用ス此規定ハ戸長又ハ區長ニ關シテモ之ヲ適用ス

第七百五十七條　差押債權者、抵當債權者又ハ債務者カ異議ヲ申立テタルキハ特別ノ賣却條件ニ於テ別段ノ定メ有ルニ非サレハ競買人ヲ許スヿヲ得ス又其競買價額ヲ顧ミルヿヲ得ス但競買人カ其競買ノ保證トシテ價額十分一ニ當ル金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ直チニ執達吏ニ預ケタルキハ此限ニ在ラス

異議ハ競買價額ノ申出アリタル後直チニ之ヲ述フルヿヲ要ス其異議ハ同一ナル競買人ノ他ノ各競買價額ニ付テモ亦効力ヲ有ス

第七百五十八條　許サレタル口頭競買價額ノ呼上ハ動產ノ競賣ニ際シ競買價額ヲ呼上ケルト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲ス

競買ヲ許サレタル各競買人ハ更ニ高價ノ競買カ許サルヽヿヲ申出ツル後滿一時間ヲ過クルニ非サレハ之ヲ終結スルヿヲ得ス

第七百五十九條　提出シタル競買口頭ノ競買終結シタル後ハ封シタル競買書ヲ出席者ノ目前ニ於テ開シ之ヲ高聲ニ朗讀ス可シ

競買書ニハ第七百五十七條ノ規定ヲ適用ス」

口頭ノ競買ト書面上ノ最高競買ト同額ナルトキハ執達吏カ又ハ區長ノ手中ヨリ抽ク可キ籤ヲ以テ其競落人ヲ定ム

第七百六十條　執達吏ハ何人カ最高競買價額ヲ申出タルニ因リ不動産ノ競落人ト為リタルヤ及ヒ最高競買價額ノ幾何ナルヤヲ高聲

ニ告知ス可シ

他ノ各競買人ハ右ノ告知ニ因リ其競買ノ責務ヲ免カレ且預ケタル保證物ノ即時返還ヲ

求ムル權利アリ
其後ノ競買ハ之ヲ採用スルヿヲ許サス
第七百六十一條　競買ニ付キ作ル可キ調書ニ
ハ殊ニ左ノ諸件ヲ掲ク可シ
第一　差押調書ヲ各人ノ閲覧ニ供シタルヿ
ノ明示及ヒ適法ナル最低ノ競買價額并ニ
賣却條件ヲ朗讀ニ因リテ通知シタルヿノ
明示
第二　競買價額ノ申出ヲ催告シタル時日ノ
明示
第三　総テ許サレタル口頭競買ノ記載及ヒ
其競買人ノ氏名住所ノ詳細ナル表示又許
サル可キ口頭競買ノ申出テラレサリシキ

ハ其旨ノ附記
第四　口頭ノ競買ヲ終結シタル時日ノ明示
第五　総テ書面競買ノ記載及ヒ口頭競買ノ
終結後ニ其競買書ヲ開封朗讀シタルヿノ
明示又許サル可キ書面競買ノ提出セラレ
サリシ片ハ其旨ノ附記
第六　口頭ノ競買又ハ書面ノ競買ニ對シ異
議カ申立テラレ且其競買ノ為メ保證カ立
テラレタル片又ハ保證ヲ立テラレサル為
メ其競買カ許サレサル片ハ此ニ関スル情
況ノ明示
第七　如何ナル人ヲ競落人トシ且如何ナル
競買價額ヲ最高ノ競買價額トシテ告知シ

タルヤノ明示
口頭ノ競買ヲ申出テタル競買人及ヒ出席シタル差押債権者并ニ債務者ハ各抵當債権者ニ署名捺印スル調書ニ署名捺印スル可キ者トシ若シ此等ノ者カ調書ノ終結前ニ退席シタルトキハ其旨ヲ調書ニ明示スル可シ

競買ノ保證ノ為メ預ケタル金銭又ハ有價證券ヲ返還シタルトキハ執達吏ハ受取證書ヲ取ル可シ

受取證書及ヒ競買書ハ調書ニ之ヲ添置ク可シ

調書ノ檢認ハ執達吏及ヒ上長又ハ區長之ヲ為ス

第七百六十二條　執達吏ハ調書及ヒ總テ競買ノ保證ノ為メ寄託セラレタル金銭又ハ有價證券ニシテ返還セラレサルモノヲ遂ク氏三日内ニ裁判所書記ニ渡ス可シ

第七百六十三條　競落人タルノ告知ヲ受ケサルモ競落ヲ得ルノ権利アリト申立ツル競買人ハ執行裁判所ノ所在地ニ住セサルトキハ同地ニ住スル第三者ノ方ニ於テ住所ヲ選定シ其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可シ若シ之ヲ怠リタルトキハ第百六十五條第二項ノ規定ヲ準用ス

住所ノ選定ハ執達吏ノ面前ニ於テ調書ニ記載セシメ又ハ其差出シタル競買書中ノ陳述

ニ因リテ之ヲ為スヿヲ得

第七百六十四條　若シ適法ナル競買價額カ競賣期日ニ口頭ヲ以テモ又其期日前ニ書面ヲ以テモ申出ラレサリシトキハ裁判所ハ職権ヲ以テ其適法ナル最低ノ競買價額ノ三分一ヲ減少シ新ナル競賣期日ヲ定ム可シ

新ナル競賣期日ハ少ナクトキ十五日ノ後タル可シ

若シ再度ノ競賣ニ於テ適法ナル競買價額カ申出ラレサルトキハ第三回ノ競賣ニ付テハ適法ナル最低ノ競買價額ノ定ハ其効力ヲ失ヒ且競賣期日ノ公告中ニ競買價額ヲ其多寡ニ拘ハラスシテ許ス可キヿヲ明記ス可シ

第七百六十五條　競賣期日ニ於テ競落人ノ誰タルヤノ告知アルマテハ債権者ハ競賣手續ノ停止ヲ為サシメ又ハ之ヲ承諾シ又■第五百九十二條第五百九十三條及ヒ第六百九條乃至第六百十三條ノ場合ニ於テハ債務者又ハ第三者ハ其手續ヲ停止セシムルヿヲ得

第七百六十六條　執達吏ハ差押調書ヲ既ニ裁判所ニ差出シタルトキハ手續停止ノ由タル情況ニ付キ其裁判所ニ報告ヲ為ス可シ

裁判所ハ既ニ競賣期日ヲ公告シタルトキハ期日ヲ取消シ其旨ヲ期日ニ呼出シタル利害関係人ニ通知シ且呼出ノ為メ掲示并ニ貼紙ヲ除去シ及ヒ裁判所掲示板ニ掲示ヲ為シテ期

日ノ取消ヲ公告シ又適當トスル場合ニ於テハ新聞紙ニ為シタル掲載ヲ取消スヲ以テ之ヲ公告スルヿヲ余ス

第七百六十七條　各競買人ハ競賣手續ノ停止ヲ以テ其競買ノ責務ヲ免カル

若シ執達吏カ競賣期日ヲ開始セス又ハ其期日ニ開始シタル競賣行為ヲ止メタル片又ハ裁判所ノ命ニ應シ期日取消ノ公告ヲ裁判所掲示板ニ掲示シテ為シタル片ハ競賣手續ハ停止セラレタルモノト看做サル

第七百六十八條　差押債権日カ停止シタル競賣手續ノ継續ヲ執達吏ニ委任シタル片ハ執達吏ハ此事ニ関シテ裁判所ニ報告ヲ為シ裁

判所ハ債権者ノ求ヲ理由アリトスル片ハ競賣期日ノ指定ノ為メ必要ナル處分ヲ為サシム可シ

第七百六十九條　競賣手續ハ同時ニ差押ノ廃棄ナキ片ハ差押債権者ノ求又ハ承諾ニ基キ一回ニ限リ三十日ヲ過キサル期間之ヲ停止スルヿヲ得若シ差押債権者カ競賣手續ノ停止後三十日ノ期間内ニ其継續ヲ求メサル片ハ執達吏ハ其旨ヲ裁判所ニ届出テ裁判所ハ職権ヲ以テ差押ノ廃棄ヲ余ス可シ

第七百七十條　競賣手續カ競賣期日ニ於テ競落人ノ誰タルヤノ告知アルマテ継續セラレタル片ハ裁判所ハ出頭シタル當事者ヲ審訊